

西近津遺跡群

NISHITIKATU
西近津遺跡XVII

長野県佐久市長土呂西近津遺跡第17次発掘調査報告書

2023.2

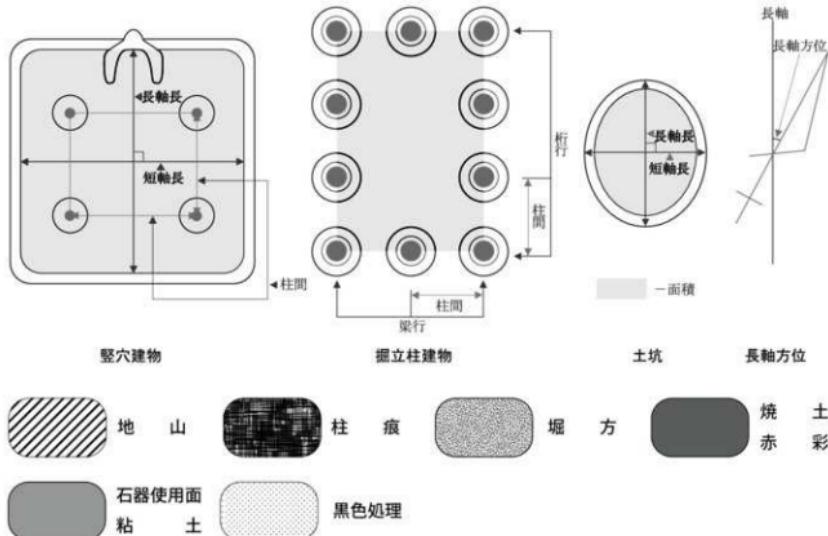
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡XVIIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社田が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西近津遺跡XVII (NT XVII) 佐久市長土呂 1806-1
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：令和3年8月17日～令和3年9月15日
整理作業：令和3年9月16日～令和4年2月17日
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図(1:2,500)、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図(1:5,000)である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構くん」により図化した。図面トレースは「遺構くん」でを行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行った。編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

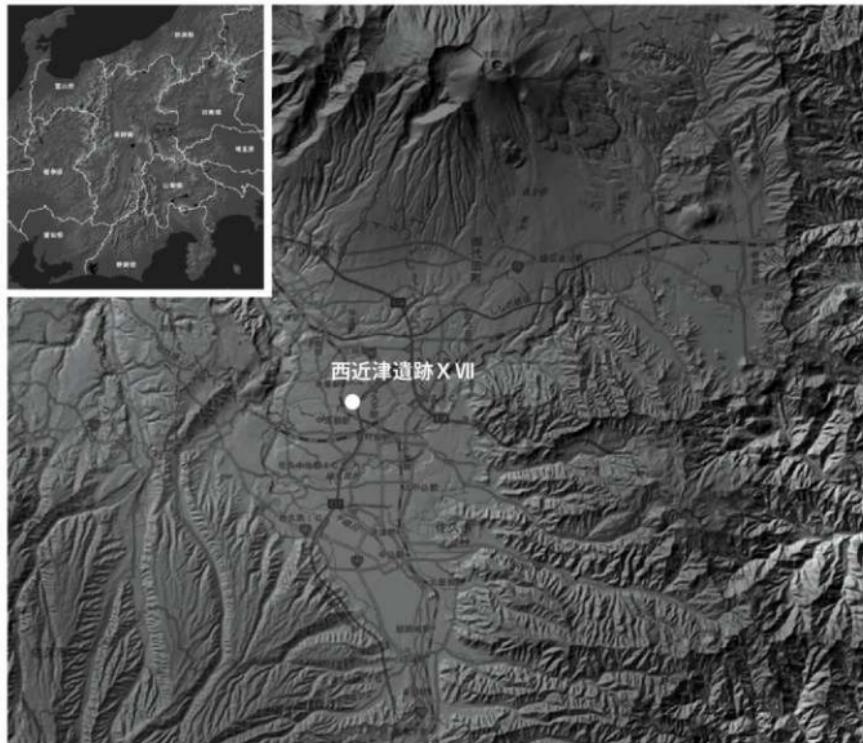
凡　　例

- 1 遺構の略記号は古代以前の竪穴建物—H、土坑—D、溝—M、ピット—Pである。
- 2 掘図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4を基本とする。これ以外のものは掘図中のスケールを参照されたい。
- 3 海抜標高は、水系標高をスケールに「標高」と記してある。土層の色調は、1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物掘図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 6 遺構の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形、梢円とした。
- 7 掘図中の網掛けは以下の表現である。



目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
第1節 竪穴建物	2
第2節 堀立柱建物	14
第3節 土坑	19
第4節 溝	22
第5節 ピット	22
第6節 遺構外出土遺物	22
第Ⅲ章 まとめ	24



第1図 西近津遺跡X VIIの位置

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

西近津遺跡XVIIは、北東から南西に延びる田切の縁部分に立地する。田切谷の底からは、小諸市であり、佐久市と小諸市の行政境に位置している。過去の16次にわたる佐久市教育委員会の調査及び、中部横断自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財センターの調査において、縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中世の大規模な複合遺跡であることが明らかとなっている。今回、同遺跡内において、株式会社田による宅地造成工事が計画されたため、佐久市教育委員会では遺跡の確認調査を実施した。その結果、遺構、遺物が確認されたため保護協議を行い、道路建設部分について記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。

第2節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹 吉岡道明 (R3年5月～)
事務局	社会教育部	部 長	土屋 孝
	文化振興課	課 長	平林照義 (R3) 中沢栄二 (R4)
		企 画 幹	谷津和彦 (R3) 井上 剛 (R4)
文化財調査係		係 長	山本秀典 (R3、R4 7月から) 伊澤信子 (R4 6月まで)
		係	富沢一明 上原 学 羽毛田卓也 (R3) 小林真寿 久保浩一郎 松下友樹 (R4)
		調査担当者	小林真寿
		調 査 員	赤羽根篤 岩松茂年 大矢志鶴 小林喜久子 小池長信 小林敏雄 桐原久人 清水律子 副島充子 田中ひさ子



第2図 西近津遺跡XVII周辺の過去の調査位置

宮川真紀子 山村容子 油井満芳

第3節 調査日誌

- 令和3年 7月19日 株式会社田より埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出される。
 7月23日 株式会社田と佐久市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査契約を締結する。
 8月17日～9月15日
 記録保存を目的とした、発掘調査を実施する。
 9月16日 報告書作成業務に着手。
 令和4年 2月17日 報告書を刊行し、全ての業務を終了する。

第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴建物ー12棟 挖立柱建物ー5棟 土坑ー7基 溝ー1条 ピットー81基
 遺物 繩文土器 弥生土器 土師器 須恵器 石器・石製品

第II章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物

H 1号竪穴建物（第3図）

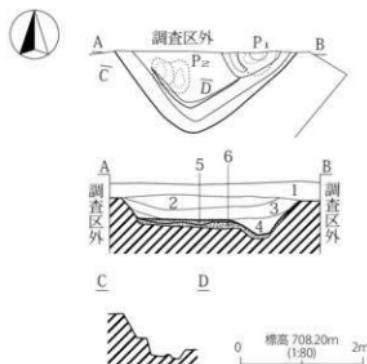
調査区東端で検出された。北、東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高34cmの規模である。検出された範囲では他遺構との重複関係は認められなかった。南壁に接するようにP1が検出された他は床面上には付随する施設は認められなかったが、堀方調査において重なり合う2基のピットと、旧建物の南西隅が検出された事から、本址は建替が行われていることが確認された。

遺物は縄文土器や土師器の細片が僅かに出土したが、図示し得るものではなく、本址の時期は不明である。

H 2号竪穴建物（第4図）

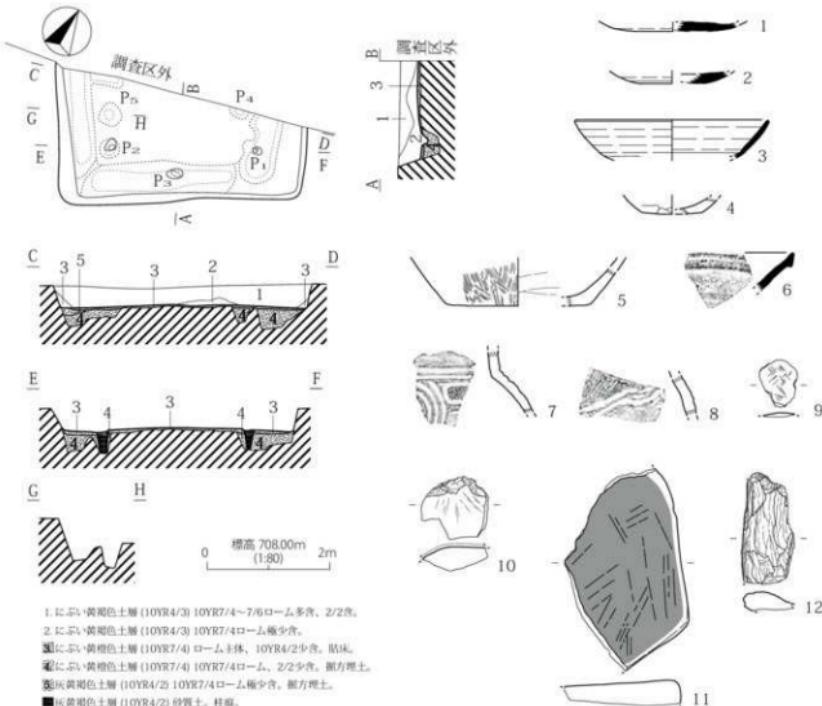
調査区東端からやや西側で検出された。H3号竪穴建物、F6号掘立柱建物を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高42cmの規模である。検出範囲にカマド・周溝は存在しないが、床面上で3基、堀方から2基のピットが検出された。これらのピットのうちP1・P2は主柱穴であり、φ16cmの柱痕が確認された。また、P3は出入口施設と思われる。

遺物は須恵器、土師器、縄文土器、石器・石製品が出土している。須恵器には壺、有台壺、甕の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しはヘラである。土師器壺は2点出土しているが、4は器壁は厚いものの武藏漬化が顕



1.灰黄褐色土層 (10YR5/2) 耕作土。
 2.にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム、φ5mm以下バミス少含。
 3.灰黃褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2分含、φ2mm以下バミス少含。
 4.にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2極少含。
 ■にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2含。砂床。
 ▲にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2極少含。掘方理土。

第3図 H 1号竪穴建物



第4図 H2号竖穴建物

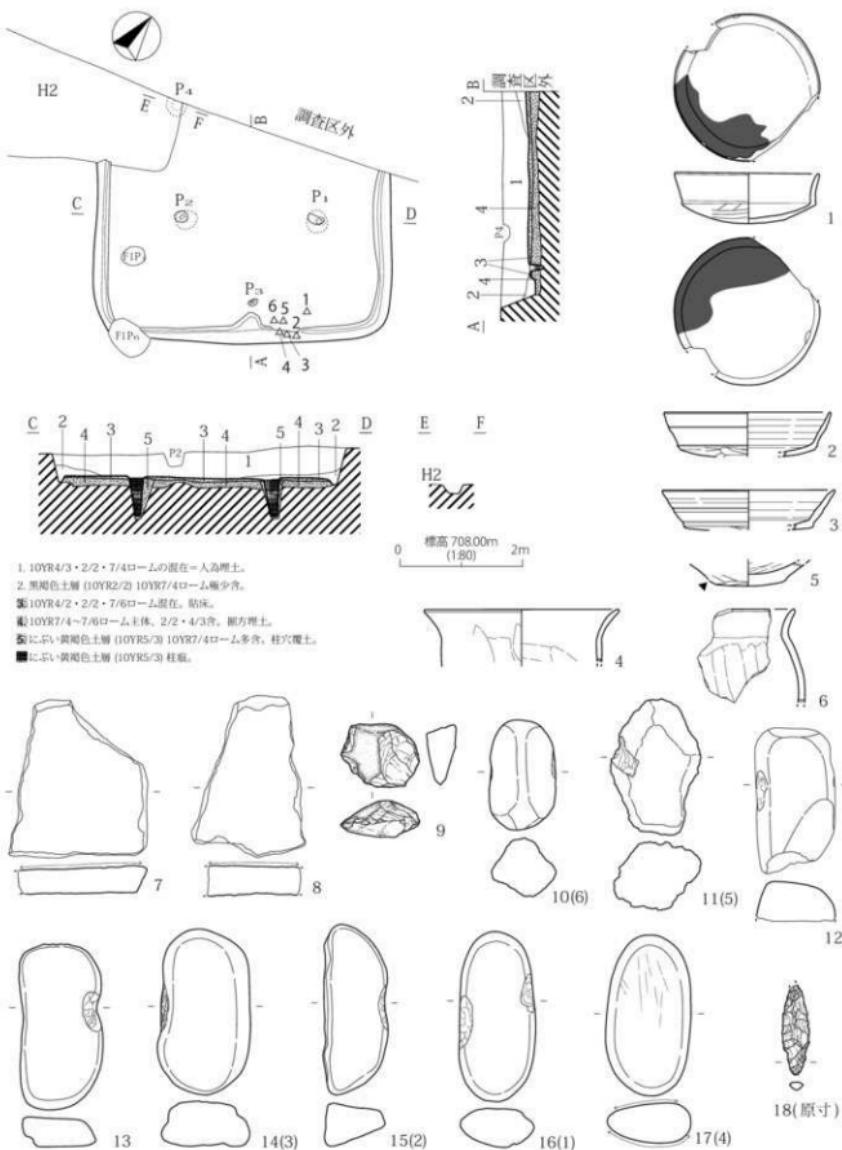
著である。縄文土器2点は混入品で、堀之内1式の鉢片である。石器・石製品は磨石と石棒の器種が認められる。石棒は緑泥片岩製で、明らかに混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、8世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

H3号竖穴建物（第5図）

H2号竖穴建物の東隣に検出された。H2号竖穴建物、F1号掘立柱建物、ピットP2～P4に切られ、H4号竖穴建物、F6号掘立柱建物、D3・4号土坑を切っている。壁残高62cmの規模で、検出範囲にはカマドは存在しない。壁下には周溝が巡り、床面上で3基、堀方から1基のピットが検出された。これらのピットのうちP1・P2は主柱穴であり、φ23cmの柱痕が確認された。また、P3は出入口施設と思われる。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には壺と甕の器種が認められる。1は北武藏型、2・3は有段口縁環である。1は内外面に煤が付着しており灯明に使用されたものと思われる。甕は全て破片で、ナデ、ケズリ調整が施されている。石器は砥石、編物石、削器、磨石、石錐の器種が認められる。削器、石錐は縄文時代のものであり混入品である。砥石や磨石については本址に伴うものか否かの判断は出来ないが、編物石は本址に伴うものである。



第5図 H3号竖穴建物

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、7世紀の実年代が想定される。

H 4号竪穴建物（第6図）

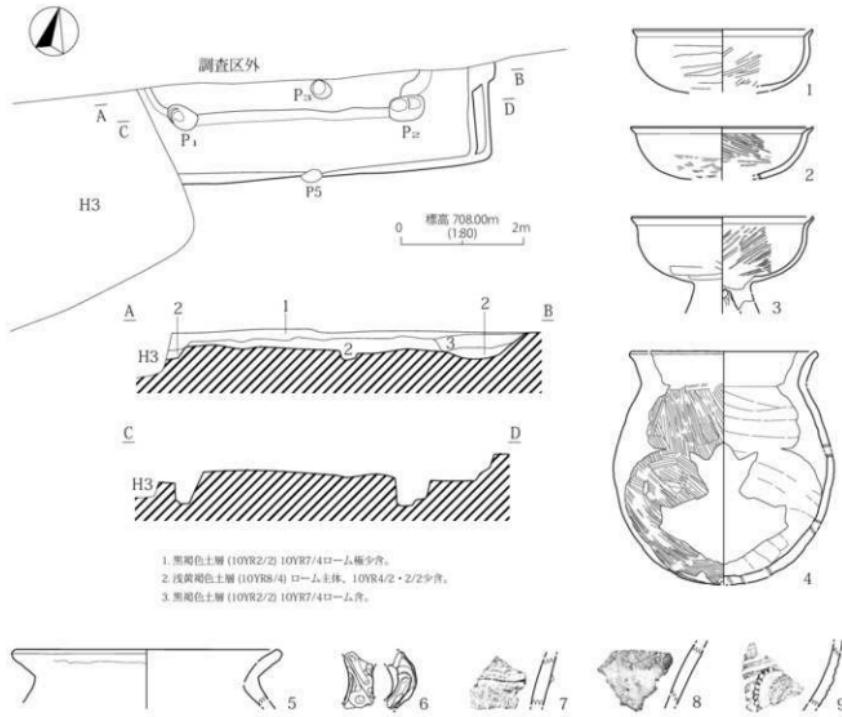
H3号竪穴建物の東隣に検出され、H3号竪穴建物に切られる。壁残高53cmの規模で、検出範囲にはカマドは存在しない。5基のピットが検出された。これらのピットのうちP1・P2は主柱穴である。本址は堀方状態で検出されており、床、周溝等は存在しなかった。

遺物は土師器と繩文土器が出土した。繩文土器は後期壠之内式のもので混入品である。土師器には高环と甕の器種が認められる。高环は口縁部が短く外反する器形で、内面には暗文状のヘラミガキ調整が施される。甕4は東海系と思われる丸底のもので、外面にはハケメ調整が施されている。甕5は口縁部片で、胴が張る器形を呈するものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代中期、5世紀後半の年代が想定される。

H 5号竪穴建物（第7図）

H3号竪穴建物の南に検出され、H6号竪穴建物を切る。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高63cmの規模である。北辺の中央と思われる部分に所謂「地山削出」のカマドが検出された他は、調査範囲内には周溝、ピットは存在しなかった。



第6図 H 4号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。土師器は全て壺で、3点出土している。この内2点は北武藏型であり、残る1点は身が深い半球状のもので、口縁端部が僅かに外反する。内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。須恵器は环蓋片が1点出土しているが、混入品である。石製品は3点の滑石製の白玉が出土している。3点全てが3の土師器壺に内包されていた。穿孔は両面から行われており、穿孔のやり直しの痕跡が6、7に認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、7世紀の実年代が想定される。

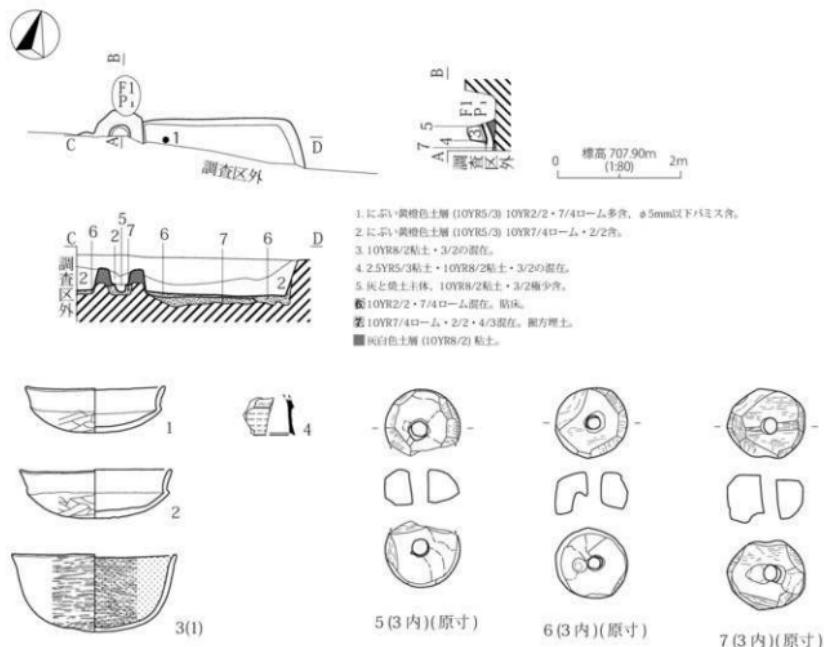
H 6号竪穴建物（第8・9図）

H5号竪穴建物の西に検出され、H5号竪穴建物に切られる。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高58cmの規模である。北辺の中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されていた。壁下には周溝が巡る。ピットは5基検出されたが主柱穴は認められない。

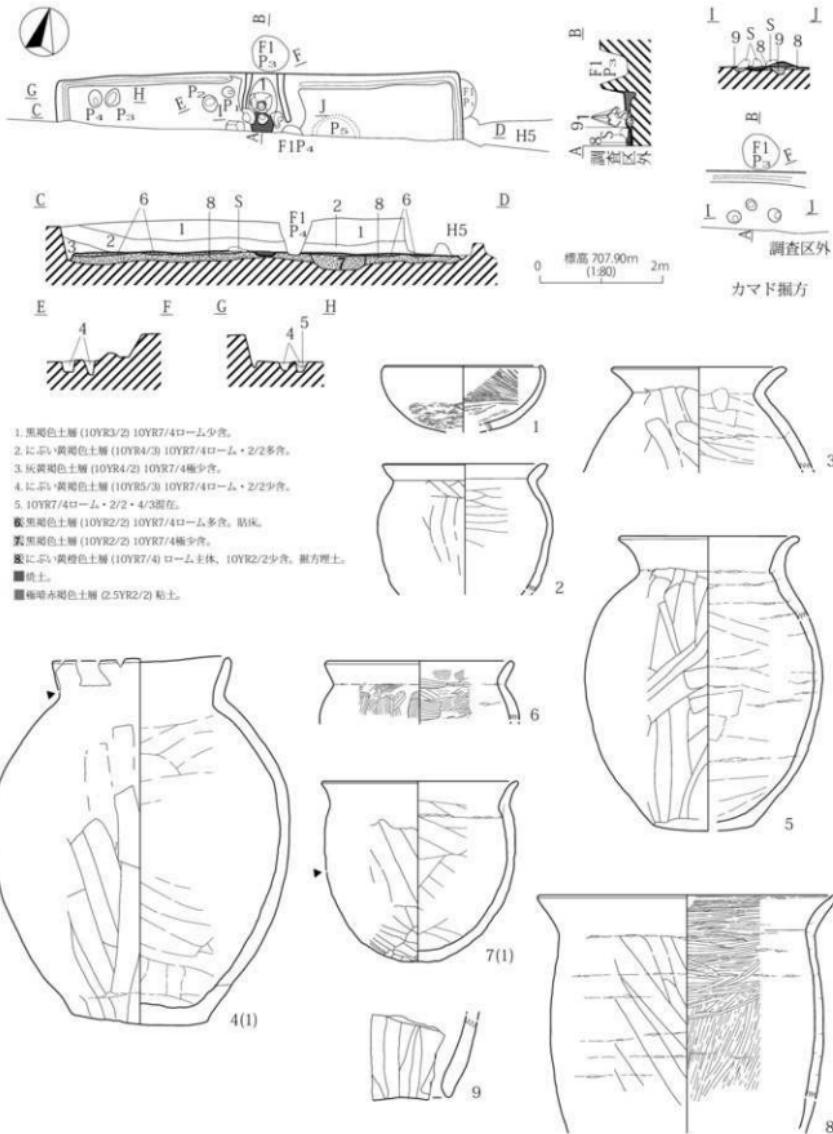
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には壺、甕、甑の器種が認められる。壺は半球状を呈し、内面に暗文状のミガキが施される。甕は7の小型甕を除き体部に最大径を有するもので、ナデ調整が施されている。甑は底部が開口する大型のものである。石器は台石、編物石、磨・敲石が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前半の実年代が想定される。

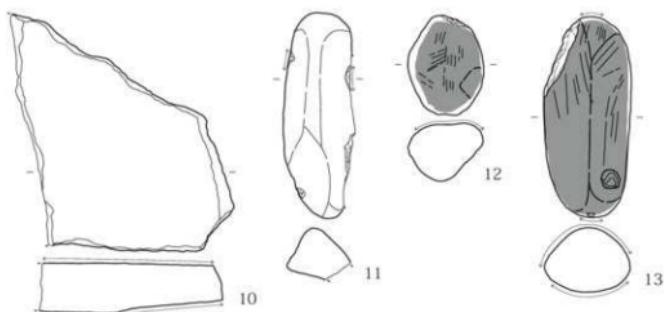
H 7号竪穴建物（第10・11図）



第7図 H 7号竪穴建物



第8図 H-6号竖穴建物(1)



第9図 H 6号竖穴建物(2)

調査区中央で検出された。H9号竖穴建物、M1に切られ。D1号土坑を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。南壁中央部分に貯蔵穴が構築された方形の張出部分を有する。壁下には周溝が巡り、東南隅にはP2に向かって伸びる2条の間仕切り溝が存在した。ピットは6基検出された。P1、P2の2基は主柱穴である。カマドは調査範囲内には存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器には壺と甕の器種が認められる。壺1は平坦な底部から口縁部が外反する形態で、内外面ミガキ調整で内面には黒色処理が施される。2は半球状を呈し、口縁部が受口状に聞く形態である。内面には暗文状のミガキが施される。甕5、7は混入品である。本址に伴うと思われる6は底部片であるが、胴張の形態を呈するものと思われる。須恵器は壺、甕、壺、甕の器種が認められる。壺と壺9は混入品である。甕は口縁部片であり、櫛歯状工具による刺突列が施されている。10の壺は甕の可能性を有する。縄文土器は全て混入品である。後期堀之内2期を主体とするものである。石器・石製品は、砥石、台石、紡錘車、編物石、磨石、磨・敲石が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前葉の実年代が想定される。

H 8号竖穴建物（第12図）

調査区中央付近で検出された。H9号竖穴建物を切り、H2号竖穴建物に切られる。検出されたのは西南隅の僅かな部分であり、規模的には、壁残高18cmが知れるのみであった。調査範囲内には付属施設は存在しなかった。

出土遺物は皆無であり時期は不明である。

H 9号竖穴建物（第13図）

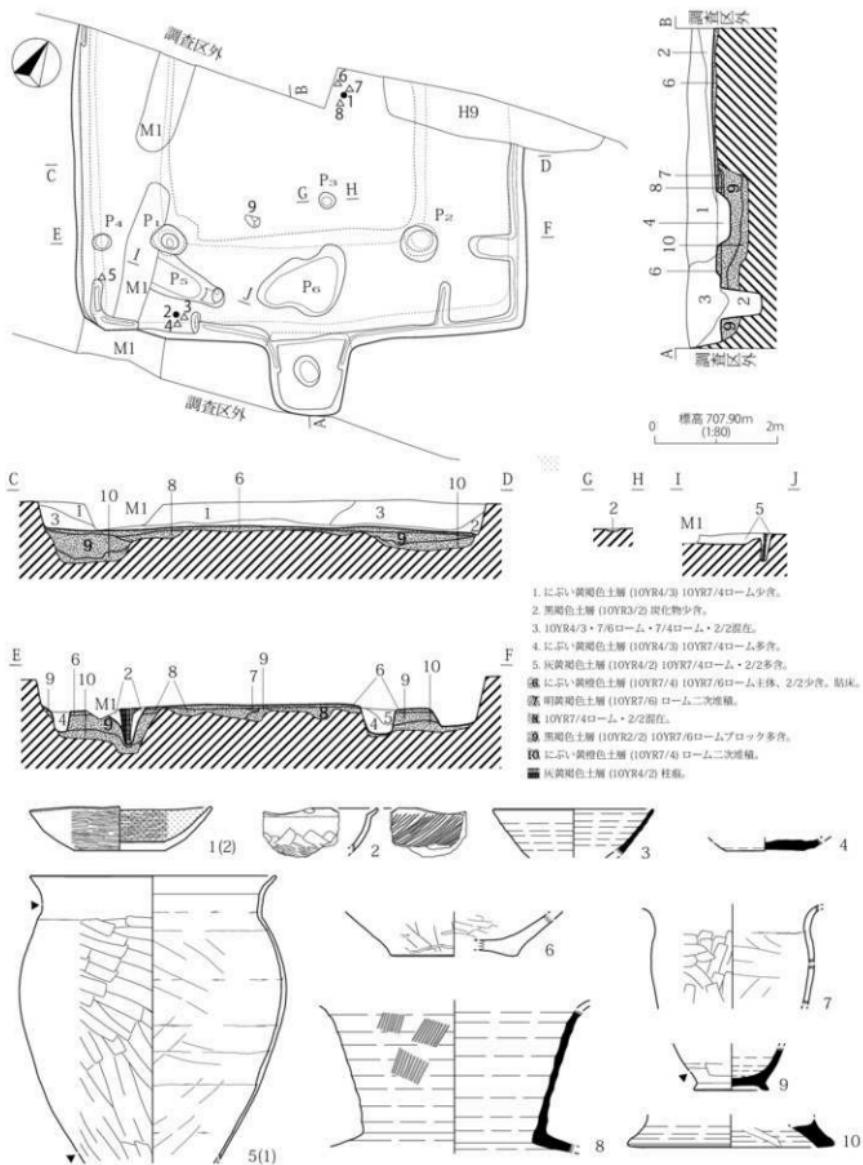
調査区中央付近で検出された。H7号竖穴建物を切り、H8号竖穴建物に切られる。北方向に延びるため全容は不明である。東南、西南の両隅を含む僅かな部分が検出されただけであり、壁残高34cm以外の規模は不明である。調査範囲内には付属施設は存在しなかった。

遺物は縄文土器片1点、編物石3点、磨石1点が出土したが、本址の時期を比定出来うるものではない。よって本址の時期は不明である。

H 10号竖穴建物（第14図）

調査区西側で検出された。D2号土坑を切る。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高78cmの規模である。カマド、周溝は調査範囲には存在しなかった。ピット1基が検出されたが性格は不明である。

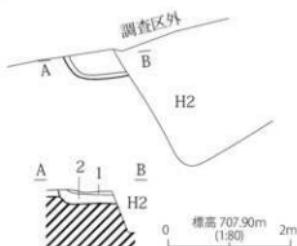
遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。土師器は壺と鉢が各1点認められる。壺は内外面にミガキが施され、底部から稜をなして口縁部が外反する。鉢は深めの半球状を呈し、口縁部が短く強く外反する。須恵器は壺蓋が1点認められる。土製品は縄文土器の破片を利用した土器片円盤が1点認められる。土器片円盤と縄文土器は全てP1から出土していることから、P1は本址に伴うものではなく、本址に先行する



第10図 H7号竪穴建物(1)



第11図 H7号竪穴建物(2)



1. に赤い黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。
2. に赤い黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム少含。

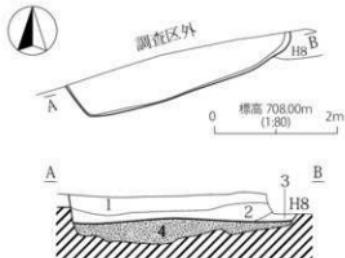
第12図 H 8号竖穴建物

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器には壺蓋と甕の器種が認められる。土師器の壺蓋は須恵器壺蓋の模倣形態であり、内面はミガキ後黒色処理が施される。市内においてこのような壺蓋は9世紀前半にしか認められないことが近年の資料蓄積から明らかになりつつある。甕は2点図化された。2点共に武藏甕である。須恵器には环、有台环、环蓋の器種が認められる。ロクロからの切離しは回転糸切によるもので、火燐が顕著なものが多い。縄文土器は混入品である。全て後期のものであり、堀之内2から加曾利B1の時期のものである。石器・石製品も縄文時代のものが多く混入していると思われるが、鉄平石や河原石を利用しているため区分が難しい。

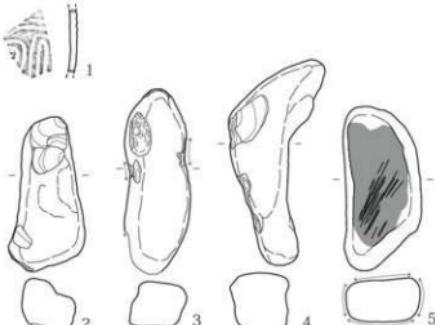
以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

H 12号竖穴建物 (第17～20図)

調査区北端で検出された。F5に切れられ、東・西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-17°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.12m、単軸長6.49m、壁残高53cm、面積46.21m²の規模である。北壁中央部分には所謂「地山削出」のカマドが構築されていたが、粘土や石などの構築材は残存していない。均等に配置さ



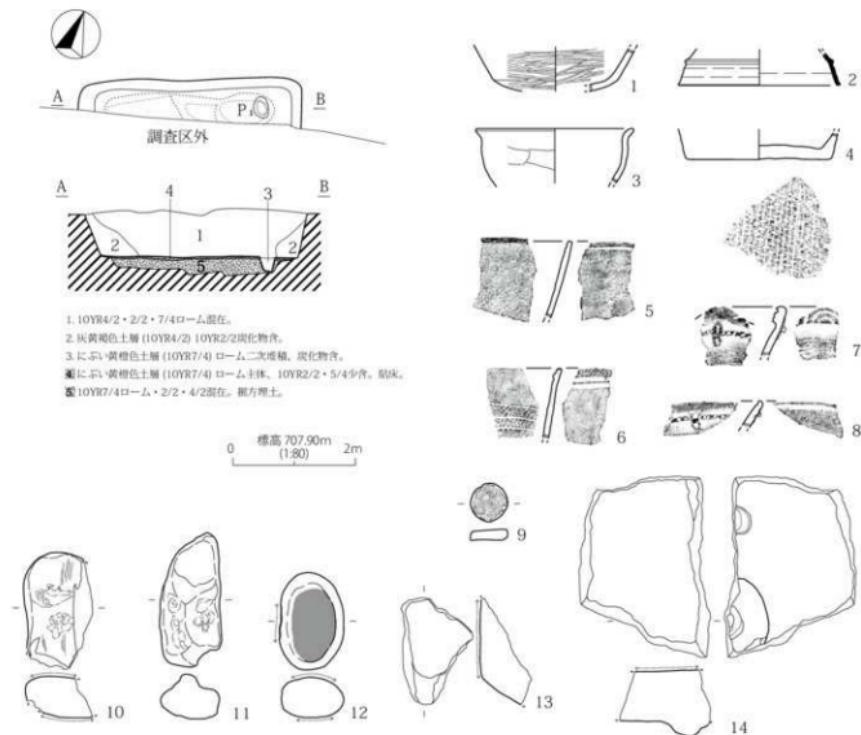
1. に赤い黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・3/2少含。
2. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
3. に赤い黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/3少含。
4. 10YR5/3・7/4ローム・2/2少含。



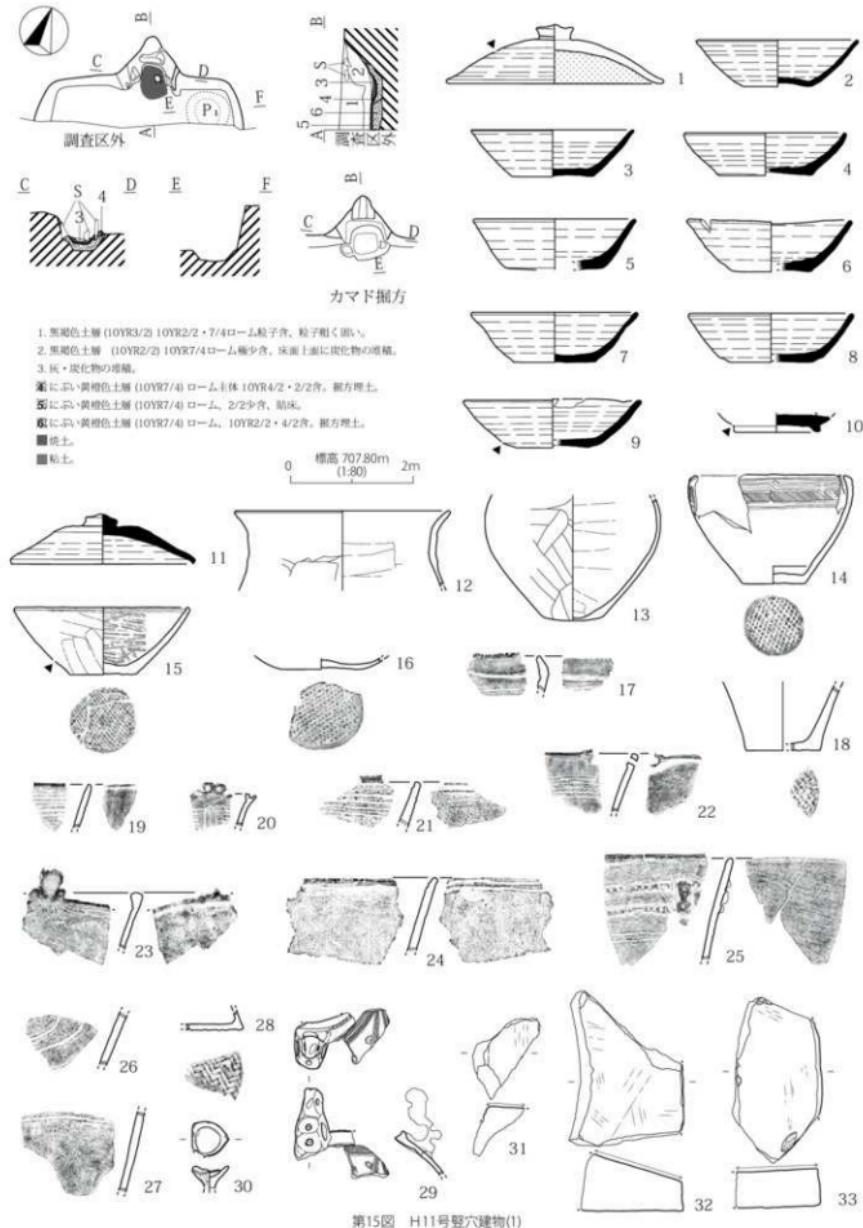
第13図 H 9号竖穴建物

れるP1～P4のピットが主柱穴であり、 $\phi 31\text{cm}$ の柱痕が確認された。P5・P6・P16は出入口施設と思われる。壁下には周溝が巡り、所謂「間仕切」が連結する。カマド右脇の間仕切の更に右側には貯蔵穴が存在するものと思われるが、調査区外になるため存在は確認できなかった。

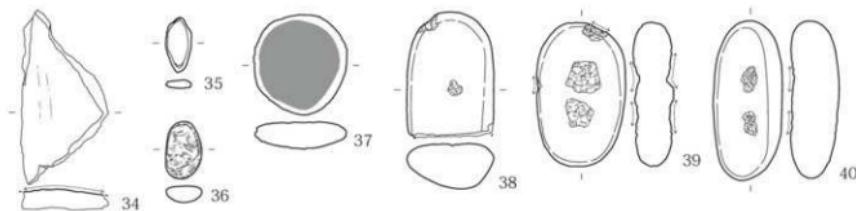
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器、土製品、石器・石製品、木器が出土している。土師器には壺、高壺、甕、壚の器種が認められる。壺は全て半球状を呈するものであるが、口縁部が内湾気味に立ち上がるものと、短く屈曲して外反するものがある。内面には暗文状のヘラミガキが施される。高壺は脚部のみの破片が1点認められた。短脚である。甕は全てのものが外へラケズリ調整が施される。器形的には胴が球胴のもと長胴のものが認められる。長胴のものは胴部下間に最大径を有している。底部が突出する形態である。壺は小型のものが1点出土している。口縁部が大きく外反する。壚は底部全体が開口する大型のものである。須恵器には壺蓋と高壺の器種が認められる。壺蓋は天井部に稜を持つものと、持たないもののが存在する。高壺は脚部を欠損する。体部には櫛描波状文が一帯巡る。弥生土器は後期の壺や高壺の破片が出土している。縄文土器は後期堀之内2式の破片が大半を占めるが、加曾利B式も少量認められる。土製品は土器片円盤や土偶片が出土している。弥生土器、縄文土器、土製品は混入品である。石器・石製品には台石、砥石、打製石斧、打製石鎌、磨石、石製模造品、編物石などの器種が認められるが、大半は混入品であり、本址に伴うものは砥石、編物石、台石・磨石の一部、石製



第14図 H10号竪穴建物



第15図 H11号竖穴建物(1)



第16図 H11号竪穴建物(2)

模造品などであろう。木器は炭化した椀の高台部分の破片と思われるものが1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前葉の実年代が想定される。

第2節 掘立柱建物

F 1号掘立柱建物（第21図）

調査区東側で、H2～9号竪穴建物に囲まれるような位置で検出された。H3、5、6、P13、18を切り調査区外に延びる。梁間1間×桁行2～3間の側柱の形態である。N—30°—Wに長軸方位を取り、梁間長2.9m、梁間柱間寸法2.9m、桁行柱間寸法1.34m～1.72mの規模で、 ϕ 18cmの柱痕が確認された。

遺物は縄文土器と石器が全てP₁から出土している。縄文土器は後期壠之内2式期のもので1は注口土器の把手、2は深鉢の体部片である。石器は台石、横刃型石器、石皿が出土しているが全て欠損品である。

遺物は混入品と思われるため、本址の時期は不明である。

F 2号掘立柱建物（第22図）

H7とH10号竪穴建物の間で検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。カクランに切られるためP₅とその北西に近接するピットとの重複関係が不明な他は、他遺構との重複関係は有さない。梁間2間×桁行不明の側柱の形態である。N—15°—Wに長軸方位を取り、梁間長4.12m、梁間柱間寸法2.02m、桁行柱間寸法3.76mの規模で、 ϕ 16cmの柱痕が確認された。

遺物は土師器片1点と、縄文土器片8点が図示出来た。縄文土器は全て後期壠之内2式期のものである。土師器は内面にミガキ、黒色処理が施される須恵器环蓋模倣の形態である。

以上の遺物から本址の所産期を比定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

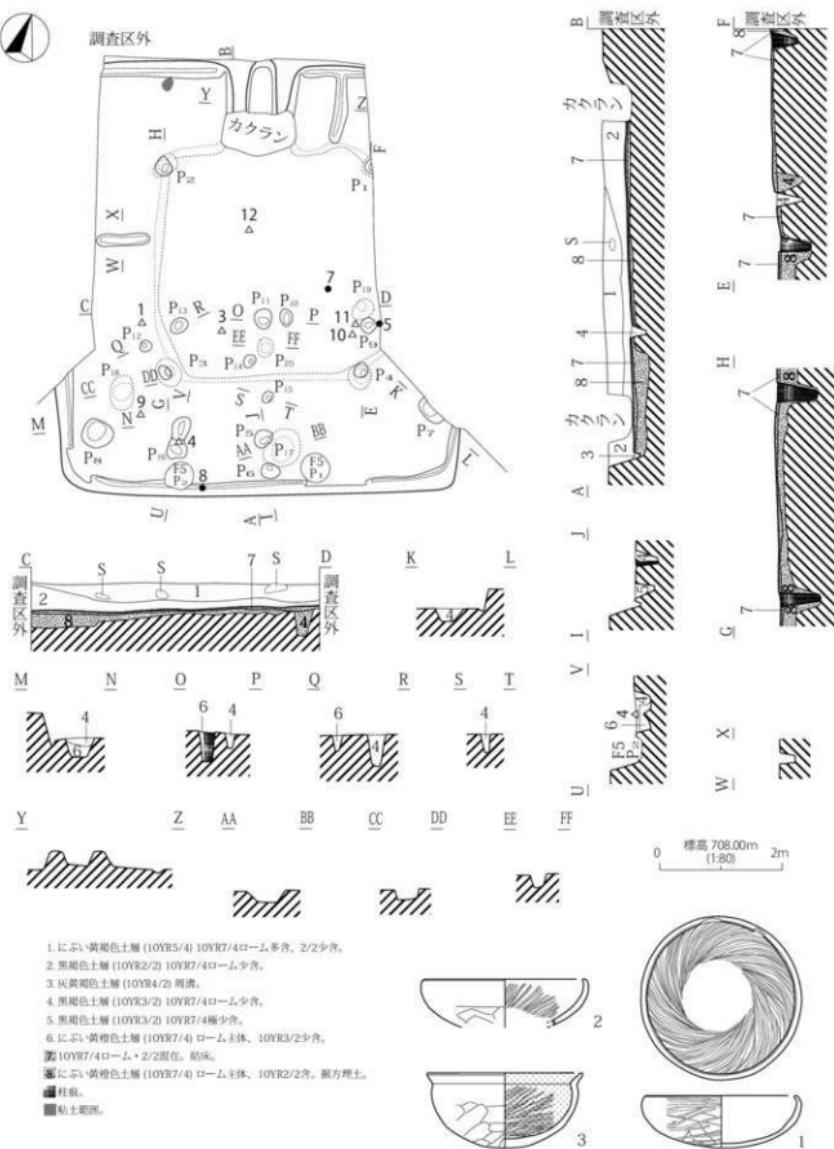
F 3号掘立柱建物（第23図）

調査区西端で検出された。F4号掘立柱建物、D7号土坑、P84を切り、カクランによる破壊を受ける。梁間1間×桁行2間の側柱の形態である。N—77°—Eに長軸方位を取り、梁間長1.59m、桁行長3.09m、梁間柱間寸法1.59m、桁行柱間寸法1.50m～1.65mの規模である。柱痕は確認できなかった。

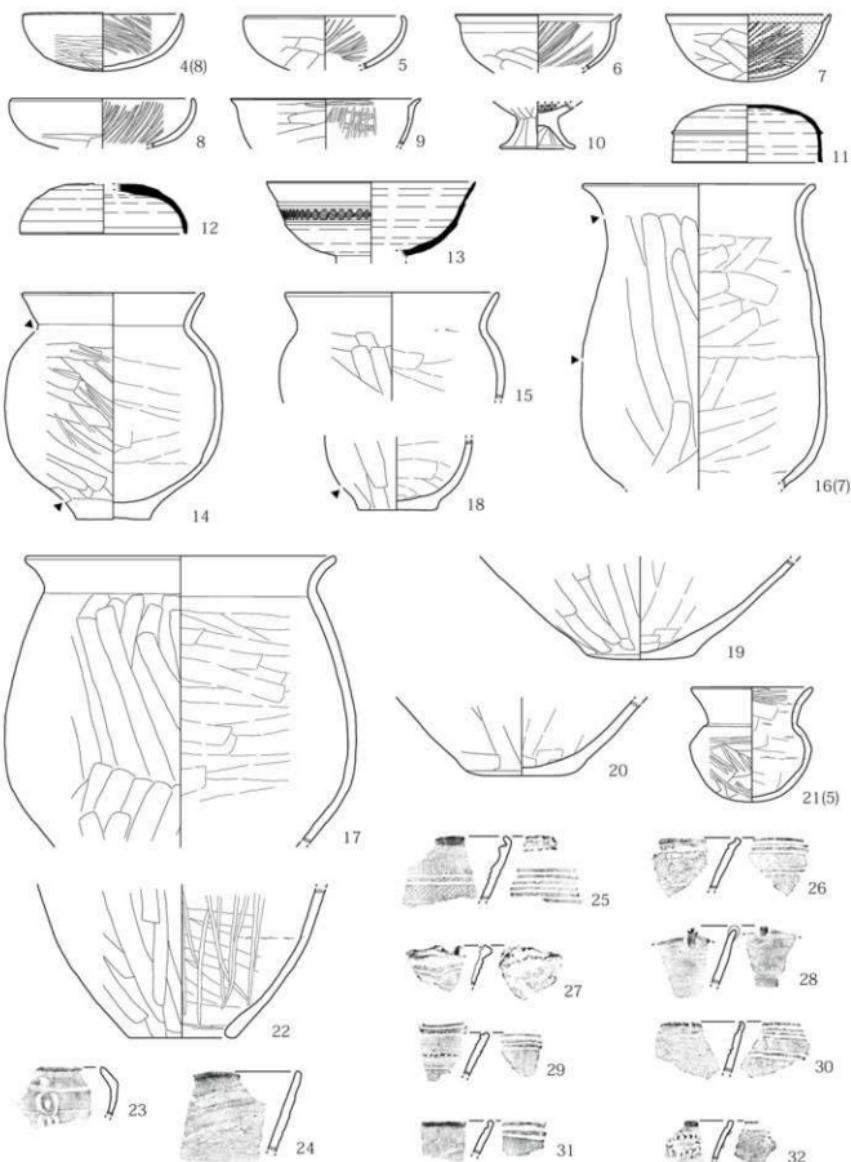
出土遺物は皆無であるが、建物を構成する柱穴の形態は中世のものであり、概期の所産と思われる。

F 4号掘立柱建物（第24図）

調査区西端で検出された。F3号掘立柱建物、P34に切られ、D7号土坑、P84を切る。西、南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。側柱の形態と思われる。柱痕は確認できなかった。



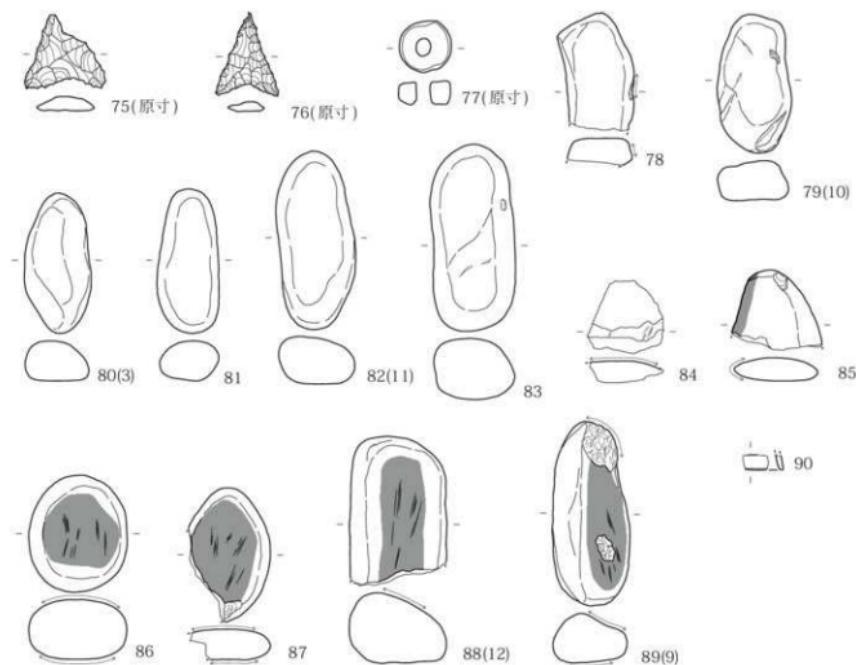
第17図 H12号竖穴建物(1)



第18図 H12号整穴建物(2)



第19図 H12号竪穴建物(3)



第20図 H12号竪穴建物(4)

遺物は砥石と磨石が各1点P1から出土しているが、これらの遺物から本址の所産期を比定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

F 5号掘立柱建物（第25図）

調査区西側で検出された。H12号竪穴建物を切り、D5号土坑、P54に切られる。梁間1間×桁行1間の側柱の形態である。N-20°-Wに長軸方位を取り、梁間長2.28m、桁行長2.50mの規模である。φ16cmの柱痕が確認された。

出土遺物は縄文土器片が4点出土しているが、遺構の重複関係から考えて本址に伴うものではない。よって、本址の所産期は不明である。

F 6号掘立柱建物（第26図）

調査区東側で、H2・3・6号竪穴建物に囲まれるような位置で検出された。H2・3号竪穴建物に切られるため全容は不明である。梁間1間×桁行間不明の側柱の形態と思われる。梁間長3.64m、梁間柱間寸法1.69m～1.95mの規模である。柱痕は確認されなかった。

出土遺物は皆無であり、本址の所産期は不明である。

第3節 土坑

D 1号土坑（第27図）

調査区中央で検出された。H7号竪穴建物、P19・64に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態で、N-5°-Eに長軸方位を取る。長軸長3.07m、単軸長1.42m、壁残高0.74m、面積1.76m²の規模である。長軸方向に中心に沿って4基のピットが掘削されていた。

遺物の出土は皆無であったが、形態から縄文時代の陥穴と思われる。

D 2号土坑（第28図）

調査区西側で検出された。H10号竪穴建物に切られる。平面円形、断面逆梯形の形態で、N-65°-Eに長軸方位を取る。長軸長1.60m、単軸長1.53m、壁残高0.55m、面積1.32m²の規模である。覆土は人為埋土と思われる堆積状況であった。

遺物は縄文土器、土製品、石器が出土した。縄文土器は後期堀之内2式のもので、器種は深鉢がほとんどを占めている。土製品は網代底の土器片を円形に加工した土器片円盤が1点出土した。石器は磨石と磨・敲石が各1点出土している。

以上の出土遺物から本址は縄文時代後期堀之内2式期の所産と考えられる。

D 3号土坑（第29図）

調査区東側で検出された。H3号竪穴建物に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態で、N-16°-Wに長軸方位を取る。単軸長0.83m、壁残高0.36mの規模である。

遺物は砥石が1点出土しているが、本址の所産期を比定しうるものではない。よって本址の時期は不明である。

D 4号土坑（第30図）

調査区東側で検出された。H3号竪穴建物、P7に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-79°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.71m、単軸長0.90m、壁残高0.20m、面積1.89m²の規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の所産時期は不明である。

D 5号土坑（第31図）

調査区西側で検出された。F5号掘立柱建物、P63に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-76°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.79m、単軸長1.36m、壁残高0.30m、面積1.65m²の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は後期堀之内2式期の深鉢片が2点認められた。石器は砥石、打製石器、磨石が各1点出土したが、本址に伴うものではない。よって本址の時期は不明である。

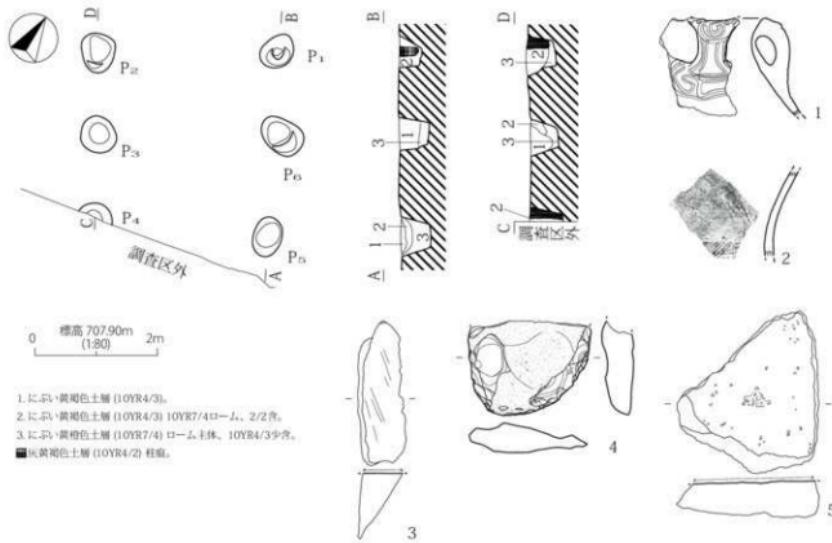
D 6号土坑（第32図）

調査区西端で検出された。P35に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-59°-Eに長軸方位を取る。長軸長1.66m、単軸長0.90m、壁残高0.23m、面積1.05m²の規模である。

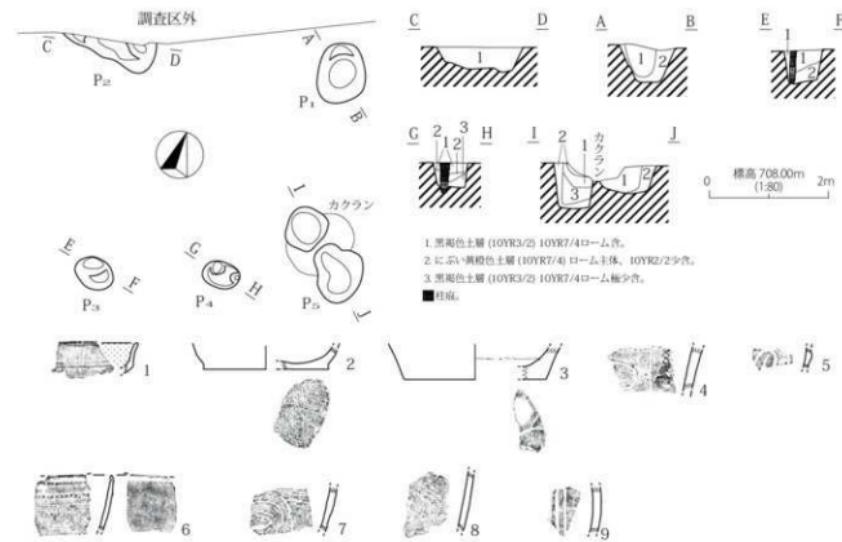
出土遺物は皆無であり、本址の所産時期は不明である。

D 7号土坑（第33図）

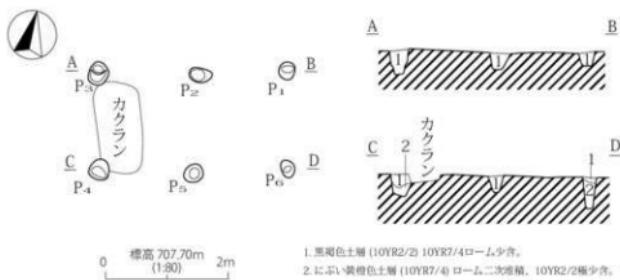
調査区西端で検出された。F4号掘立柱建物に切られる。平面円形、断面逆梯形の形態で、N-49°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.19m、単軸長1.16m、壁残高0.35m、面積0.78m²の規模である。覆土は自然堆積の



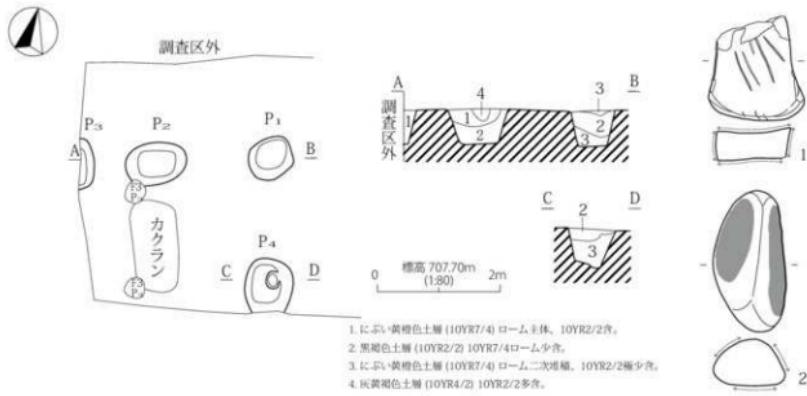
第21図 F 1号掘立柱建物



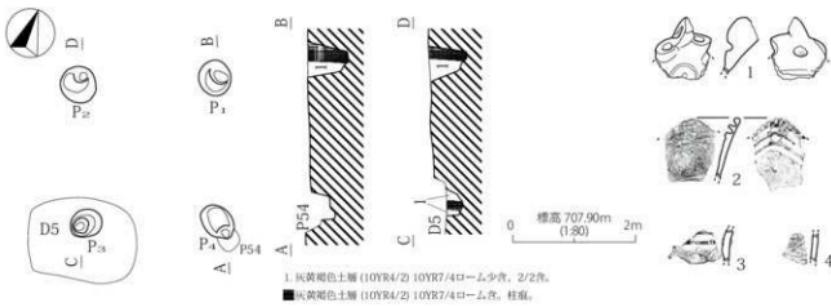
第22図 F 2号掘立柱建物



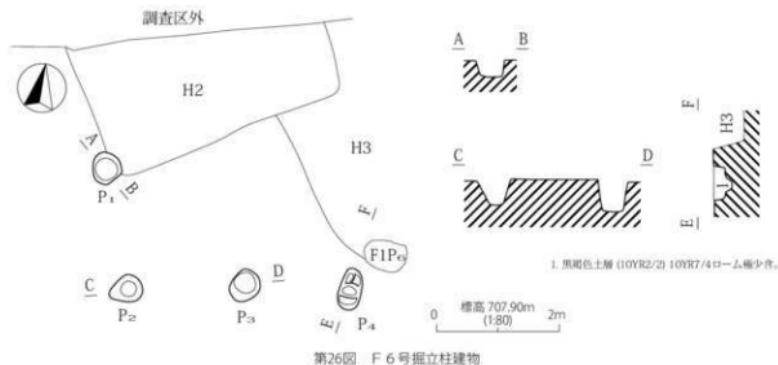
第23図 F 3号掘立柱建物



第24図 F 4号掘立柱建物



第25図 F 5号掘立柱建物



状況を呈するが、底面から3ヶの礫が検出された。

遺物は縄文土器と石器が出土した。縄文土器は後期堀之内2式期のもので、1点の浅鉢片を除き深鉢片であった。石器は磁石、台石、加工痕のある剥片、石皿片が出土している。

以上の出土遺物から本址は縄文時代後期堀之内2式期の所産と考えられる。

第4節 溝

M 1号溝（第34図）

調査区中央で検出された。H7号竪穴建物を切る。南北両方向に調査区外に延びるため全容は不明である。検出長5.01m、最大幅1.34m、最大深度0.67mの規模である。

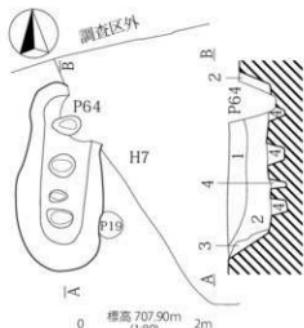
出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

第5節 ピット（第35～40図）

調査区西側に集中する傾向が認められる。時期的には縄文時代から中世まで及ぶものと思われる。畑の耕作により、削平され消失したものも存在するものと思われる。遺物が出土したものは極めて少なく、また図化出来た遺物も極めて少ない。性格的には柱あるいはそれに類するものを機能させるために掘削されたものであろう。詳細については表を参照されたい。

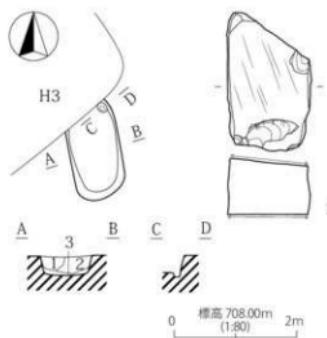
第6節 遺構外出土遺物（第41図）

縄文土器と石器を掲載したが、弥生時代後期の土器片も認められた。鉄平石の破片も少なからず散布しており縄文時代後期の遺構群が古代の集落により破壊されたものと解釈される。縄文土器は堀之内2式の新しい段階のものが主体であり、石神類型も散見される。加曾利B1式も少数認められ、1の浅鉢と20の磨製石斧は遺構検出面上に遺構に伴わらず出土した。かって、ホップの栽培が試みられ、桑を伐根し若干の整地が行われたようであり、この時のものと思われる重機の爪痕と溝状のカクランが認められた。



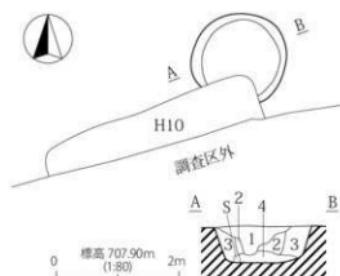
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6口—ム極少含。
2. 10YR2/2 + 7/4口—ム混在。
3. 明黄褐色土層 (10Y7/6) ローム二次堆積。
4. にぶ・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。

第27図 D 1号土坑

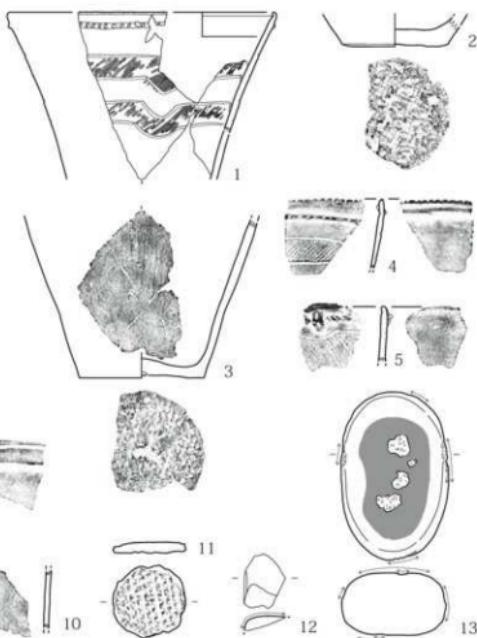


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 反黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。
3. 帶褐色土層 (10YR3/4) ローム二次堆積。

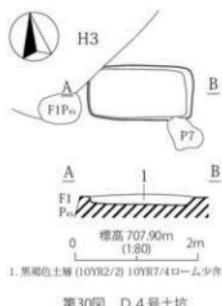
第29図 D 3号土坑



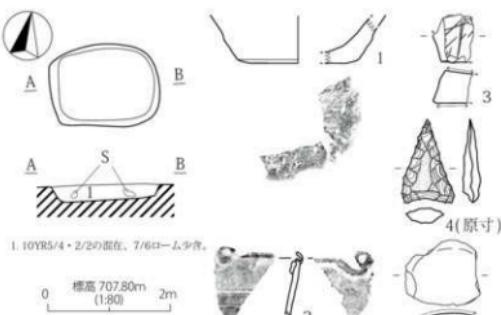
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含、φ1cm以下バニス少含。
2. 反黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。
3. にぶ・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。
4. 黑褐色土層 (10YR2/2)。



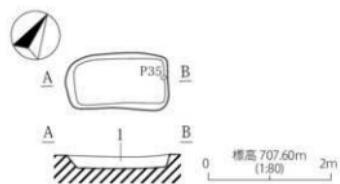
第28図 D 2号土坑



第30図 D 4号土坑



第31図 D 5号土坑



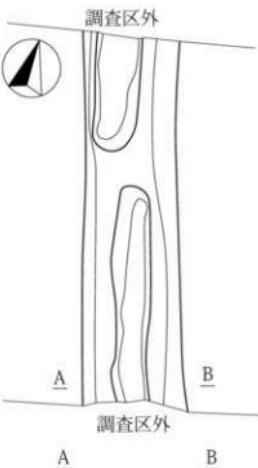
第32図 D 6号土坑

第III章 まとめ

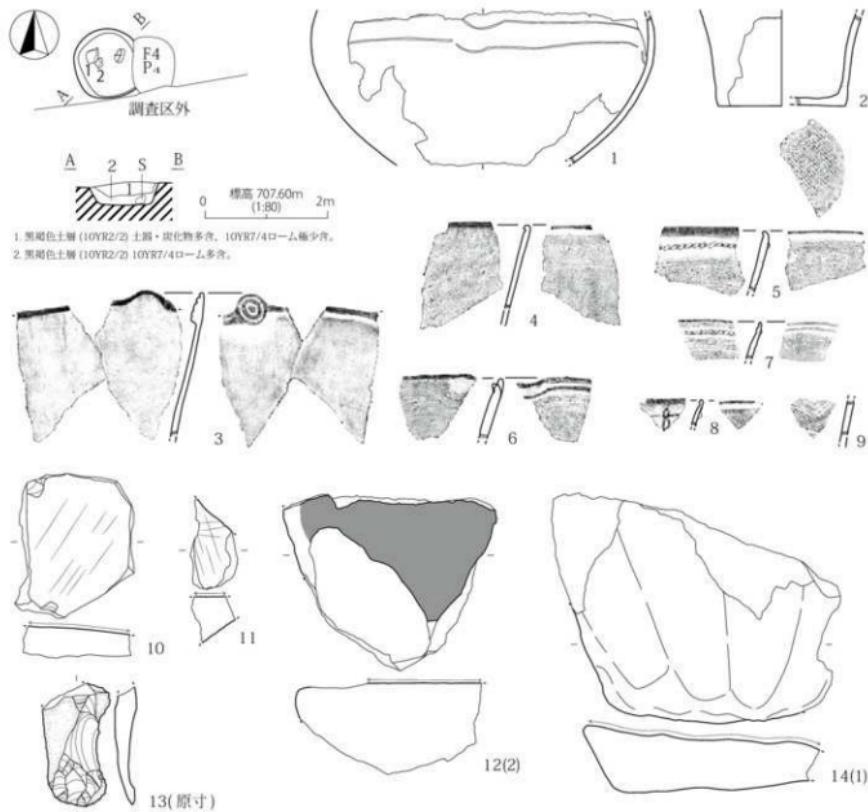
出土した縄文時代後期の土器群は、時期的には堀之内2式が大半を占めており、出土場所は縄文時代の遺構に伴うものは少なく、ほとんどは古代の竪穴建物覆土から出土している。縄文時代の遺構に伴うものは、土坑D2、D7出土の土器群に限られる。これらの土器群には外面口縁部の文様帶を消失し、内面に横位四線を巡らすものが含まれる一方、口縁部に鎖状隆帯と8の字貼付文が施されるものが共存する。口縁形態は前者は波状が多く、後者は平縁が多い。前者の体部文様は残存部分には認められず、無文の可能性も高いが、所謂「粗製土器」ではない。後者の体部文様は縄文充填の横位帶状文がほとんどであるが、第33図-1のような沈線のみで描出されたものも存在する。時期的には堀之内2式の新しい部分に位置付くものと思われる。また、遺構外出土の第41図-1やH11号竪穴建物覆土出土の14図-14・15浅鉢などのように加曾利B1式の古い段階のものと思われるものも認められるが、この時期のものは数量的には少ない。

今回検出された縄文時代後期の土器群は、長野県東部地域の千曲川流域における、堀之内2式から加曾利B1式の変遷を考察する上で貴重な資料のひとつであるものと思われる。

今回の調査区域の主体となる古墳時代後期の集落は6世紀前葉を主体とする時期のものである。この時期は、弥生時代中期後半から後期にかけての集落の膨張が、古墳時代前期に極端に衰退した後、再び増加が顕著となる時期であり、その要因の見極めが重要な時期であろう。検出された竪穴建物の規模は大きく、遺構の残存状態も良いが、遺物の残存量が少



第34図 M 1号溝



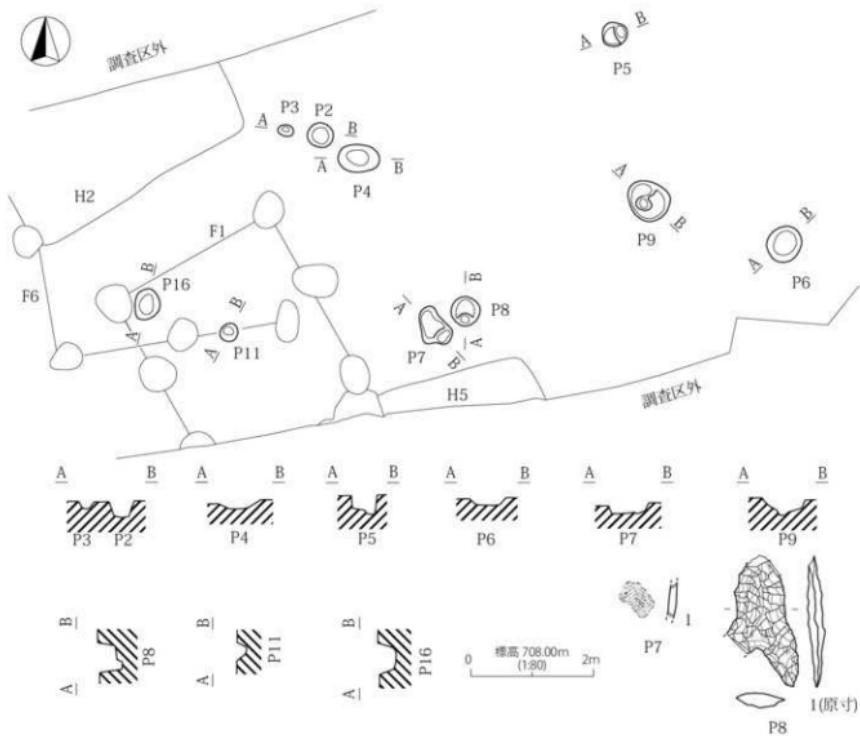
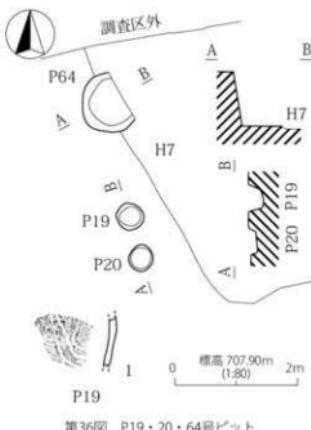
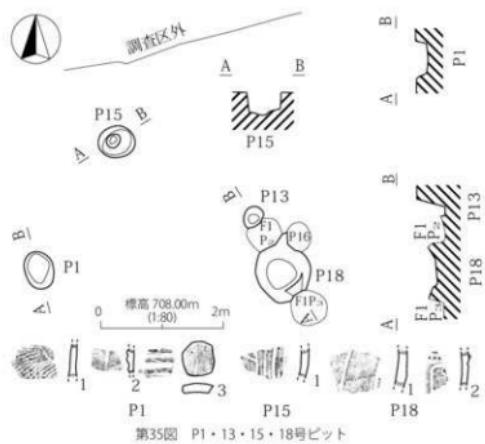
第33図 D 7号土坑

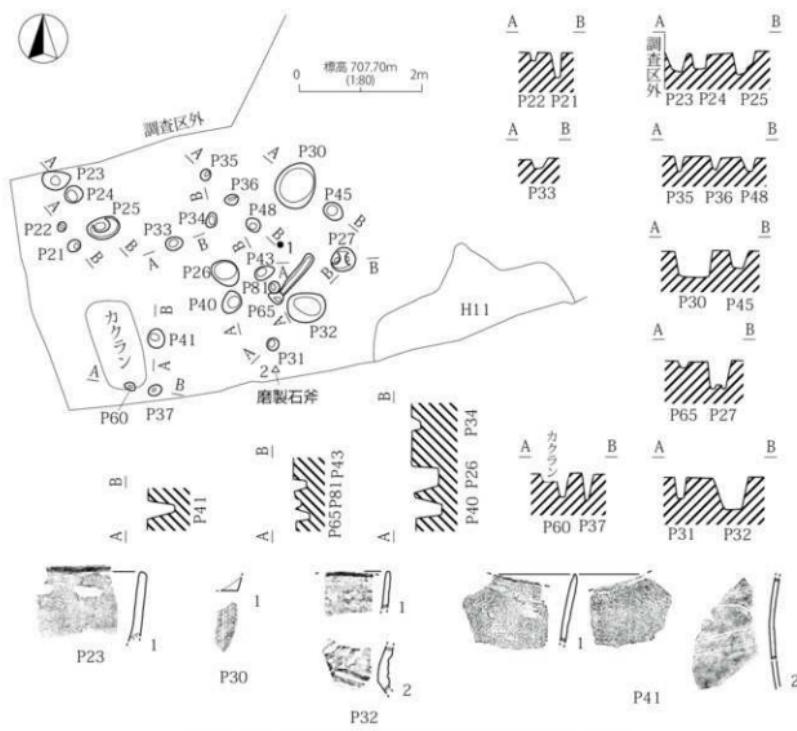
ないことが影響し、集落の性格は判然としない。

中世と思われる遺構（土坑やピットなど）も少なからず認められるが、当遺跡に限らず遺物の出土量が少ない時期であり、時期的位置付けが難しい。

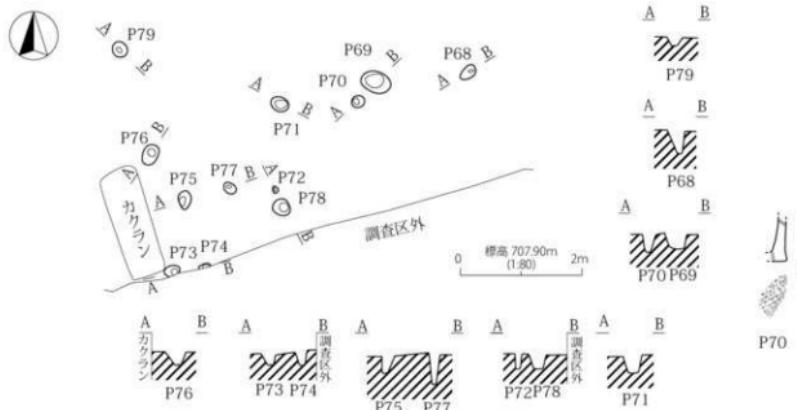
参考文献

- | | | |
|--|------|---------------|
| 2008年 総覧縄文土器 | 小林達雄 | (株)アム・プロモーション |
| 2012年 縄文後期土器研究の現状と課題 | | 縄文セミナーの会 |
| 2018年 地域考古学3号 縄文後期前半における土器形式の存立構造 鈴木徳男 | | 地域考古学研究会 |
| 2021年 千曲川一信濃川流域の先史文化 堀之内式並行期の文化様相 綿田弘実 | | 津南町教育委員会 |

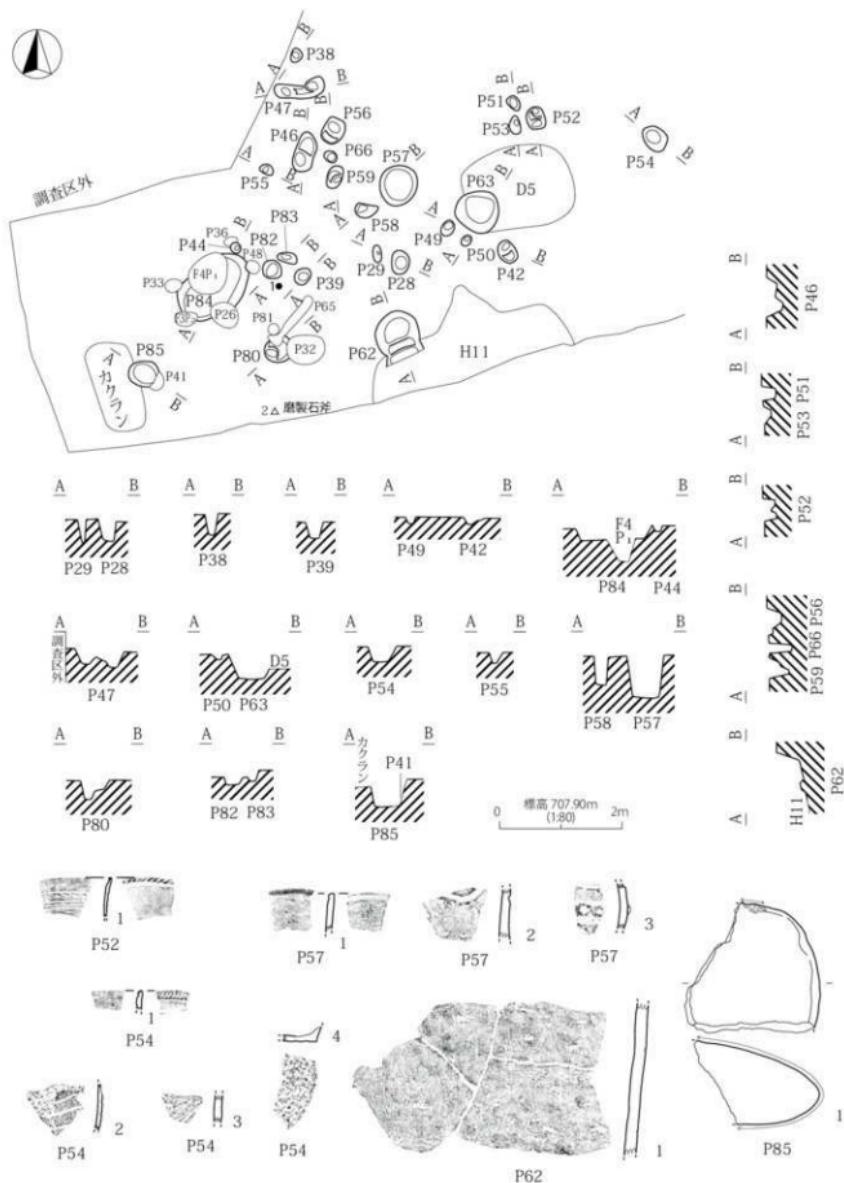




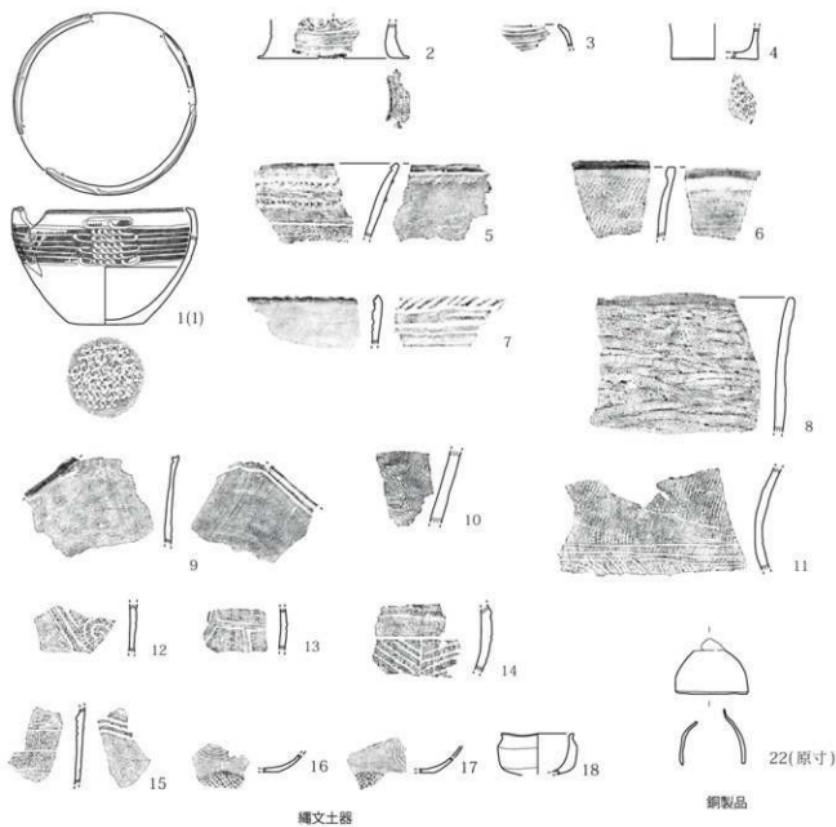
第38図 P21~27・30~37・40・41・43・45・48・60・65・81号ビット



第39図 P68~79号ビット



第40図 P28・29・38・39・42・44・46・47・49～59・62・63・66・80・82～85号ビット



繡文土器

銅製品

石器・石製品

彌生土器

第41回 遺構外出土遺物

卷之三

標準規格六種物計測表										時期	
通称名		規格		主柱		柱間工法		カマド		重複関係	
長軸方位		長軸長		柱架空		柱穴寸数		ヒット数		位置構造方法	
H1	—	—	0.34	—	—	—	—	1	—	P-1	
H2	—	—	0.42	0.16	2	2.40	3	—	—	P-2 H3 を切り調査区外に延びる	
H3	—	—	0.62	0.23	2	2.24	3	—	—	P-1 H2, F1, P2, 3, 4 に切り調査区外に延びる	
H4	—	—	0.53	—	2	3.74	3	—	有	P-1 H3, F1 に切り調査区外に延びる	
H5	—	—	0.63	—	—	—	—	—	—	P-1 H3, F1 に切り調査区外に延びる	
H6	—	—	0.58	—	—	—	—	4	北 地山削出	—	
H7	—	—	1.07	0.31	2	4.16	6	—	有	P-1 H3, F1 に切り調査区外に延びる	
H8	—	—	0.18	—	—	—	—	—	—	P-1 H3, F1 に切り調査区外に延びる	
H9	—	—	0.34	—	—	—	—	—	—	P-1 H3, F1 に切り調査区外に延びる	
H10	—	—	0.78	—	—	—	—	—	—	P-1 H2 が切り調査区外に延びる	
H11	N-17-W	7.12 (6.49)	0.53	0.31	—	—	—	1	北 石灰粘土	—	
H12	N-17-W	7.12 (6.49)	0.53	0.31	—	4.322 ~ 3.40	16	北 地山削出	有	P-1 F5, カランに切り調査区外に延びる	
F1	IN-30°W	—	2.90	—	0.18 (1.34 ~ 1.72)	—	—	2.9/H3	5, 6, P13, 18 が切り調査区外に延びる	重複関係	
F2	N-15°W	—	4.12	—	0.16 (3.76)	—	—	2.0/F4	—	—	
F3	N-77°E	3.09	1.59	4.91	—	1.50 ~ 1.65	—	1.5/H3, P1	4, D7, P84 を切りカランに延びる	重複関係	
F4	—	—	—	—	—	—	—	—	F3, P4 に切り調査区外に延びる	—	
F5	N-20°W	2.50	2.28	5.7	0.16	2.47 ~ 2.58	2.33 ~ 2.43	D5, P54 に切りられ、H12 を切る	—	—	
F6	—	—	3.64	—	—	—	—	1.69 ~ 1.95/H2, 3 に切りられる	—	—	
F6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D1	楕円形	N-5-E	—	—	—	—	—	—	—	—	
D2	楕円形	(楕円形)	N-65-E	—	1.6	1.42	0.74	(1.1/6) H7, P19, 64 に切りられる	重複関係		
D3	楕円形	(N-16°W)	N-79-W	—	0.83	0.55	(1.1/3) H10 に切りられる	—			
D4	長方形	N-79-W	—	—	0.36	(1.1/3) H3 に切りられる	—	—	—		
D5	長方形	N-76-E	—	—	0.9	0.2	(1.89) H3, P7 に切りられる	—	—		
D6	長方形	N-59-E	—	—	1.71	1.36	—	—	—		
D7	楕円形	N-49-W	—	—	1.66	0.9	0.23	1.05/P35 に切りられ、H12 を切る	—		
P1	楕円形	—	—	1.19	1.16	0.35	(0.78) F4 に切りされる	—	—		
P2	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P3	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P4	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P5	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P6	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P7	不定形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P8	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P9	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
P10	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—		
ビット計測表(I)											
通称名		平面形状		長軸長		短軸長		壁厚		重複関係	
P1	楕円形	—	—	0.63	0.47	0.20/H7 を切る	—	—	—	JOYH4/3	7/4 口-L 壁少合
P2	楕円形	—	—	0.43	0.41	0.27/H3 を切る	—	—	—	10H4/3	2/2-7/4 口-L 壁少合
P3	楕円形	—	—	0.26	0.19	0.12/H3 を切る	—	—	—	10YH4/3	2/2-7/4 口-L 壁少合
P4	楕円形	—	—	0.68	0.45	0.15/H3 を切る	—	—	—	10YH4/3	2/2-7/4 口-L 壁少合
P5	楕円形	—	—	0.43	0.40	0.32	—	—	—	10YH2/2	7/4 口-L 壁少合
P6	楕円形	—	—	0.61	0.55	0.10	—	—	—	10YH2/2	7/4 口-L 壁少合
P7	不定形	—	—	0.69	0.48	0.17/D4 を切る	—	—	—	10YH4/3	7/4 口-L 壁少合
P8	楕円形	—	—	0.48	0.48	0.40	—	—	—	10YH2/2	7/4 口-L 壁少合
P9	楕円形	—	—	0.72	0.63	0.28	—	—	—	10YH3/2	7/4 口-L 壁少合
P10	楕円形	—	—	0.31	0.28	0.17	—	—	—	10YH3/2	7/4 口-L 壁少合

ピット計測表(2)

造形名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係	備考
P13	椭円形	0.39	0.29	0.48	F1P2に切られる	10YR3/2 7/4 ローム少食。
P15	椭円形	0.61	0.52	0.38		1-10YR2/2 7/4 ローム極少食。2-10YR2/2 棒痕φ 16mm。
P16	椭円形	0.52	0.42	0.31	P18を切る	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P18 (椭円形)		1.16	0.90	0.39	F1P2, F1P3, P16に切られる	1-10YR2/2 7/4 ローム少食。2-10YR2/4 ローム二次増幅。
P19	円形	0.46	0.44	0.27	D1を切る	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P20	円形	0.44	0.40	0.14		10YR3/2 7/4 ローム少食。
P21	椭円形	0.22	0.19	0.41		10YR2/2 7/6 ロームブロック食。
P22	椭円形	0.16	0.14	0.14		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P23	椭円形	0.47	0.31	0.35		10YR3/4 2/2-7/4 ローム斜子食。(調文?)
P24	円形	0.30	0.27	0.23		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P25	椭円形	0.53	0.35	0.36		10YR7/6 ローム主体、上端に2/2。
P26	椭円形	0.49	0.39	0.48	P84を切る	10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。(調文?)
P27	円形	0.41	0.38	0.49		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。(調文?)
P28	椭円形	0.39	0.29	0.40		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。(調文?)
P29	椭円形	0.28	0.14	0.38		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。(調文?)
P30	椭円形	0.77	0.64	0.44		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。(調文?)
P31	円形	0.20	0.20	0.35		10YR2/2 7/4 ローム食。
P32	椭円形	0.63	0.50	0.54	P80を切る	10YR2/2 7/4 ローム食。
P33	椭円形	0.28	0.22	0.17	P84を切る	10YR2/2 7/4 ローム食。
P34	椭円形	0.25	0.17	0.14	F4P1を切る	10YR2/2 7/4 ローム食。
P35	椭円形	0.19	0.16	0.25	D6を切る	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P36	椭円形	0.23	0.17	0.22	P44を切る	10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。
P37	椭円形	0.23	0.17	0.44		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P38	椭円形	0.23	0.18	0.34		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。
P39	椭円形	0.30	0.24	0.26		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。
P40	椭円形	0.37	0.30	0.45		10YR5/4 2/2-7/4 ローム食。
P41	椭円形	0.32	0.28	0.46	P85を切る	10YR2/2 7/4 ローム極少食。
P42	椭円形	0.39	0.29	0.11		10YR5/4 7/4 ローム食。
P43	椭円形	0.34	0.20	0.22		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P44	椭円形	0.18	0.16	0.10	P36に切られる	10YR5/4 7/4 ローム多食。
P45	椭円形	0.33	0.27	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P46	椭円形	0.66	0.33	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P47	不定形	0.83	0.30	0.32		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P48	椭円形	0.26	0.21	0.23	P84を切る	10YR2/2 7/4 ローム食。
P49	椭円形	0.27	0.20	0.10		10YR2/2 7/4 ローム食。
P50	椭円形	0.20	0.15	0.09		10YR2/2 7/4 ローム食。
P51	椭円形	0.26	0.18	0.25		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P52	椭円形	0.38	0.31	0.25		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P53	椭円形	0.30	0.18	0.12		10YR5/4 7/4 ローム食。
P54	椭円形	0.45	0.35	0.29	F5P3を切る	1-10YR2/2 7/4 ローム少食。2-10YR7/4 ローム主体、2/2少食。
P55	椭円形	0.23	0.16	0.18		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P56	椭円形	0.42	0.34	0.25		10YR5/4 7/4 ローム食。
P57	円形	0.68	0.62	0.70		10YR5/4 2/2-7/4 ローム多食。
P58	椭円形	0.38	0.24	0.47		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P59	椭円形	0.39	0.25	0.33		10YR5/4 7/4 ローム少食。
P60	椭円形	0.18	0.12	0.33	カクランに切られる	10YR2/2 7/4 ローム極少食。
P62	—	—	—	0.55	H11に切られる	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P63	円形	0.72	0.70	0.45	D5に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P64	—	—	—	0.94	H7に切られ D1 を切る	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P65	不定形	0.99	0.25	0.27	P80を切る	—
P66	椭円形	0.23	0.18	0.40		10YR5/4 7/4 ローム少食。
P68	椭円形	0.30	0.19	0.40		10YR2/2 7/4 ローム食。
P69	椭円形	0.50	0.35	0.30		10YR5/4 7/4 ローム多食、2/2極少食。
P70	椭円形	0.22	0.20	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多食、2/2極少食。
P71	椭円形	0.31	0.24	0.31		10YR5/4 7/4 ローム多食、2/2極少食。
P72	椭円形	0.12	0.09	0.25		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P73	—	—	—	0.18	調査区外に延びる	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P74	—	—	—	0.25	調査区外に延びる	10YR2/2 7/4 ローム少食。
P75	椭円形	0.31	0.22	0.27		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少食。
P76	椭円形	0.35	0.25	0.23		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少食。
P77	椭円形	0.23	0.17	0.53		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少食。
P78	椭円形	0.30	0.27	0.24		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少食。
P79	椭円形	0.27	0.24	0.14		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少食。
P80	(円形)	0.46	0.43	0.35	P32. 65に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P81	円形	0.19	0.18	0.07		10YR2/2 7/4 ローム少食。
P82	円形	0.34	0.31	0.20		10YR5/4 7/4 ローム多食。
P83	椭円形	0.33	0.17	0.17		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P84	椭円形	1.32	—	0.23	F3P2, F4P1, P26, 33, 48に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。
P85	—	—	—	0.44	P41. カクランに切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 食。

H2号室六建物出土遺物組合表

No	器種	器形	口径(縦) 法	底径(縦) 法	高さ(厚)	重量	内面	外面	備考	出土層位
1	須世器	环	—	(6.0)	(0.8)	—	ロクロナデ	ヘラ切り	回伝・丸削	E
2	須世器	环	—	(7.0)	(1.0)	—	ロクロナデ	底部へ開けズリ	回伝・丸削	W
3	須世器	有台付	16.0	—	(3.1)	—	ロクロナデ	底部、周縁ケズリ	回伝・丸削	W
4	土師器	武靖甕	—	(5.0)	(1.3)	—	ナデ	ケズリ	回伝・丸削	E
5	土師器	甕	—	(11.6)	(4.0)	—	ナデ	ミガキ	回伝・丸削	W
6	須世器	甕	—	—	—	—	—	—	城山・丸削・石本	W
7	印文土器	钵	—	—	—	—	—	後期甕之内1式、沖縄、縄文(LR)	城山・丸削・石本	E
8	印文土器	鉢	—	—	—	—	—	後期甕之内1式、沖縄、縄文(LR)	城山・丸削・石本	W
9	石器	磨石	〈3.9〉	〈3.1〉	〈0.4〉	〈5.8〉	磨面1	完全丸削	E	
10	石器	磨石	〈5.2〉	〈5.5〉	〈2.4〉	〈65.3〉	磨面1	完全丸削	E	
11	石器	磨石	〈16.6〉	〈10.3〉	〈2.1〉	〈517.0〉	磨面1	完全丸削	E	
12	石製品	石棒	〈9.2〉	〈4.3〉	〈1.6〉	〈93.8〉	碌泥片岩	完全丸削	E	

H3号室六建物出土遺物組合表

No	器種	器形	口径(縦) 法	底径(縦) 法	高さ(厚)	重量	内面	外面	備考	出土層位	
1	土師器	北武疏野环	12.1	11.0	4.2	—	保付箇、灯明に使用か?	保付箇、ケズリ	完全丸削	III、IV区	
2	土師器	有段口縫环	(13.6)	(11.4)	(3.6)	—	ナデ	ケズリ	完全丸削	I区	
3	土師器	有段口縫环	(14.2)	(10.6)	(3.2)	—	ナデ	ナデ	完全丸削	IV区	
4	土師器	甕	(16.0)	—	(4.3)	—	ナデ	ケズリ	完全丸削	I区	
5	土師器	甕	—	—	5.8	〈2.0〉	—	ナデ	ナデ	完全丸削	I区
6	土師器	甕	—	—	—	—	—	—	城山・丸削	IV区	
7	白器	砥石	〈13.0〉	〈11.3〉	〈2.6〉	〈576.0〉	砥面1	完全丸削	IV区		
8	白器	砥石	〈13.4〉	〈9.4〉	〈2.7〉	〈498.0〉	砥面1	完全丸削	IV区		
9	石器	刷器	5.2	6.4	3.0	102.8	—	完全丸削	IV区		
10	石器	刷物臼	9.1	5.5	4.9	291.0	—	完全丸削	No6		
11	石器	刷物臼	11.2	7.4	5.6	308.0	—	完全丸削	No5		
12	石器	刷物臼	〈12.0〉	〈6.5〉	〈3.5〉	〈456.5〉	全周欠損	完全丸削	III区		
13	石器	刷物臼	13.6	6.9	2.4	396.0	—	完全丸削	III区		
14	石器	刷物臼	13.7	7.6	3.7	606.0	—	完全丸削	No3		
15	石器	刷物臼	14.0	5.4	3.7	358.5	—	完全丸削	No2		
16	石器	刷物臼	14.0	6.3	3.4	416.5	—	完全丸削	No1		
17	石器	磨石	13.3	7.0	3.3	439.0	磨面2	完全丸削	No4		
18	石器	石磨	〈3.7〉	1.1	0.7	〈3.1〉	上部欠損	完全丸削	III区		

H4号室六建物出土遺物組合表(1)

No	器種	器形	口径(縦) 法	底径(縦) 法	高さ(厚)	重量	内面	外面	備考	出土層位
1	土師器	高环	(14.8)	—	(5.1)	—	前文状三引手	ケズリ→ミガキ	回伝・丸削	覆土
2	土師器	高环	(15.0)	—	(4.3)	—	前文状三引手	ミガキ	回伝・丸削	覆土
3	土師器	高环	(15.4)	—	(7.7)	—	前文状三引手	ケズリ	回伝・丸削	覆土
4	土師器	甕(東海系)	(22.2)	—	〈19.2〉	—	ナデ	ハケ目	回伝・丸削	覆土
5	土師器	甕	—	—	〈4.7〉	—	ナデ	ナデ	—	—

H4 号室穴建物出土遺物類聚表(2)

No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
6	陶文土器	鉢	—	—	円孔、光線	—	—	破片美術、拓本	陶土
7	陶文土器	鉢	—	—	楕円隠滑	—	—	破片美術、拓本	陶土
8	陶文土器	鉢	—	—	楕円隠滑	—	—	破片美術、拓本	陶土
9	陶文土器	鉢	—	—	楕円隠滑	—	—	破片美術、拓本	陶土

H5 号室穴建物出土遺物類聚表

No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	环	11.5	10.7	3.8	—	ナデ	ケズリ	完全剥離
2	土師器	环	12.4	11.6	4.0	—	ミガキ	ケズリ	完全剥離
3	土師器	环	13.6	—	6.4	—	ロクロナデ	ミガキ	完全剥離
4	須恵器	环	—	—	—	—	—	ロクロナデ	完全剥離
6	石製品	臼玉	<1.3	<1.5	<0.7	<2.1	一部欠損、穿孔1	ミガキ	完全剥離
7	石製品	臼玉	1.4	1.5	0.9	2.8	穿孔1、未穿孔1	ロクロナデ	完全剥離
8	石製品	臼玉	1.4	1.5	0.9	3.7	穿孔1、未穿孔1	ミガキ	完全剥離

H6 号室穴建物出土遺物類聚表

No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	环	(13.0)	—	<5.3	—	輪文状ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式剥離
2	土師器	環	(13.6)	—	<10.5	—	ケズリ、ナデ	ケズリ→ナデ	P4
3	土師器	環	(14.4)	—	<8.3	—	ナデ	ケズリ	回転式剥離
4	土師器	環	(14.6)	11.0	30.3	—	ナデ	ケズリ→ナデ	完全剥離
5	土師器	環	14.8	(8.2)	24.2	—	ナデ	ケズリ	回転式剥離
6	土師器	小型環	(15.6)	—	<4.8	—	ハラナデ	ハラナデ	完全剥離
7	土師器	小型環	(16.2)	—	14.8	—	ハラナデ	ケズリ	回転式剥離
8	土師器	環	(24.0)	—	<19.6	—	ミガキ	ケズリ	回転式剥離
9	土師器	環	—	—	—	—	ケズリ、ナデ	ケズリ	回転式剥離
10	石器	臼石	(19.5)	<(8.4)	(4.1)	<(20.3)	使用面2、上部表面に黒く焼けている	ミガキ	完全剥離
11	石器	臼石	16.9	5.9	5.1	<(50.7)	—	ミガキ	完全剥離
12	石器	臼石	8.2	6.2	4.9	196.6	側面1、上部に斜打打痕	ミガキ	完全剥離
13	石器	臼石	16.5	7.2	5.3	952.0	側面2	ミガキ	完全剥離

H7 号室穴建物出土遺物類聚表(1)

No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	环	15.0	7.4	3.6	—	ミガキ	ミガキ	完全剥離
2	土師器	环	—	—	<3.6	—	輪文状のミガキ	ケズリ→ミガキ	破片美術
3	須恵器	环	(13.2)	—	<3.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全剥離
4	須恵器	环	—	6.4	1.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全剥離
5	土師器	武藏型	21.6	—	<(23.3)	—	ナデ	ケズリ	回転式剥離
6	土師器	武藏型	—	(10.4)	<3.4	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全剥離
7	須恵器	環	—	<8.2	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全剥離
8	須恵器	環	—	—	<12.4	—	ロクロナデ	ミガキ	完全剥離

H7号室下建物出土遺物類別表(2)

No	器種	器形	口径(長)径(短)	高さ(厚)	重量等		内面	成形・調整外面		備考	出土層位
					口径(厚)	高さ(厚)		内面	外面		
9	須世器	壺	—	6.0 (16.8)	<3.5 (2.3)	—	口クロナデ	口部へラフエイリ+手高台	—	回転丸頭	I区
10	須世器	長颈壺(瓢?)	—	—	<4.9 (2.9)	—	口クロナデ	口クロナデ	口クロナデ	完全丸頭	I区
11	須世器	長颈壺	—	—	—	—	口クロナデ	口クロナデ	口クロナデ	完全丸頭	I区
12	須世器	壺	(12.0)	—	—	—	口クロナデ	口クロナデ	口クロナデ	完全丸頭、松本ケン	ケン
13	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、解剖式	後期壺之内2、解剖式	後期壺之内2、解剖式	破片丸頭、松本Ⅱ、Ⅲ区(ホリ)	ホリ
14	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	破片丸頭、松本Ⅱ、Ⅲ区(ホリ)	ホリ
15	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	破片丸頭、松本P6	P6
16	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	破片丸頭、松本Ⅳ区	ホリ
17	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	後期壺之内2、口部彫刻B、I区側面部	破片丸頭、松本Ⅰ区	ホリ
18	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、平行弦削面にIR織文、体部斜曲跡か?	後期壺之内2、平行弦削面にIR織文、体部斜曲跡か?	後期壺之内2、平行弦削面にIR織文、体部斜曲跡か?	破片丸頭、松本カクラン	ホリ
19	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期・微降起沿による曲線文	後期・微降起沿による曲線文	後期・微降起沿による曲線文	破片丸頭、松本Ⅳ区	ホリ
20	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	完全丸頭	I区
21	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	完全丸頭	Ⅳ区(ホリ)
22	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	後期壺之内2、沈縁文 IR簡文	完全丸頭	Ⅳ区(ホリ)
23	石器	砥石	(6.3)	<6.0	<2.6	—	<138.1	底面	底面	完全丸頭	Ⅲ区
24	石器	台石	(11.3)	(13.0)	(3.9)	—	<877.0	上・下欠損	上・下欠損	完全丸頭	No6
25	石器	台石	(11.8)	(11.2)	(8.8)	—	<1778.0	—	—	完全丸頭	No5
26	石器	台石	(14.2)	(15.1)	(6.0)	—	<883.0	全周欠損、使用面1	全周欠損、使用面1	完全丸頭	No7
27	石器	台石	(14.5)	(10.3)	(2.0)	—	<532.0	上部、左側欠損	上部、左側欠損	完全丸頭	Ⅲ区
28	石器	台石	(23.9)	(23.1)	(4.7)	—	<1300.0	全周欠損	全周欠損	完全丸頭	No9
29	石器品	坊鎧車	4.2	2.0	1.9	—	48.5	鑿形鉄	鑿形鉄	完全丸頭	Ⅲ区
30	石器	輪物石	11.1	6.4	3.3	—	362.5	両側に加工痕	両側に加工痕	完全丸頭	No4
31	石器	輪物石	11.8	6.2	4.0	—	431.0	—	—	完全丸頭	No3
32	石器	輪物石	11.9	7.6	3.7	—	368.5	両側に使用痕	両側に使用痕	完全丸頭	ケン
33	石器	輪物石	12.1	6.1	4.0	—	408.0	—	—	完全丸頭	ケン
34	石器	輪物石	13.5	4.4	3.7	—	262.0	右側に加工痕	右側に加工痕	完全丸頭	Ⅳ区
35	石器	輪物石	15.9	9.0	3.4	—	607.0	使用痕	使用痕	完全丸頭	Ⅲ区
36	石器	磨石	5.1	3.2	1.7	—	414.4	裏面に削り	裏面に削り	完全丸頭	I区
37	石器	磨石	(5.1)	(4.4)	(1.2)	—	<35.0	半分欠損、全面削り	半分欠損、全面削り	完全丸頭	Ⅲ区
38	石器	磨石	7.5	4.1	2.5	—	86.2	正面に削り	正面に削り	完全丸頭	Ⅲ区
39	石器	磨・敲石	13.6	8.8	5.9	—	1280.0	正、裏、右側面に削り	正、裏、右側面に削り	完全丸頭	覆土
40	石器	磨石	13.7	8.4	4.9	—	826.0	前面3	前面3	完全丸頭	No8

H9号室下建物出土遺物類別表

No	器種	器形	口径(長)	径(短)	高さ(厚)	重量等		内面	成形・調整外面		備考	出土層位
						口径(厚)	高さ(厚)		内面	外面		
1	鏡文土器	深鉢	—	—	—	—	—	後期、沈縁文	—	—	完全丸頭	ケン
2	石器	輪物石	(15.2)	12.7	6.3	4.7	458.0	—	—	完全丸頭	完全丸頭	Ⅳ区
3	石器	輪物石	16.9	5.9	3.8	4.0	410.0	右側に加工痕	右側に加工痕	完全丸頭	完全丸頭	Ⅳ区
4	石器	輪物石	13.5	6.4	3.6	624.0	—	—	—	完全丸頭	完全丸頭	Ⅳ区
5	石器	輪物石	—	—	—	—	—	—	—	—	完全丸頭	覆土

No	器種	器形	口径(最)深さ(最)	底径(短)高さ(厚)	重量	内面成形・調整		備考	出土層位
						内面	外面		
1	土師器	环	—	—	<3.5)	ミガキ	ミガキ	完全光剥	覆土
2	須恵器	蓋	(13.4)	—	<2.7)	—	クロナデ	完全光剥	覆土
3	須恵器	鉢	(13.0)	—	<4.5)	—	ナデ	完全光剥	覆土
4	簡文土器	深鉢	—	(12.0)	<2.2)	—	後期圈之内、内面口唇部に1本の觸位凹線	完全光剥	P1
5	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈之内2、内面口唇部に1本の觸位凹線	完全光剥	P1
6	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈之内2、内面口唇部に1本の觸位凹線	完全光剥	P1
7	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈之内2、内面口唇部に1本の觸位凹線	完全光剥	P1
8	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈之内2、内面口唇部に1本の觸位凹線	完全光剥	P1
9	簡文土器	器皿	3.2	3.1	1.0	触がれに見、輪、丸の跡	完全光剥	完全光剥	覆土
10	石器	砥石	(9.6)	(5.7)	(3.3)	(180.3)	正裏面、下面部、右側面欠損	完全光剥	覆土
11	石器	輪・滾石	11.0	5.1	3.9	281.0	—	完全光剥	覆土
12	石器	磨石	8.0	5.3	3.3	186.1	正面斜面、左側面に棘打痕	完全光剥	覆土
13	石器	磨石	(8.8)	(5.9)	(4.1)	(159.4)	正面斜面、全周欠損	完全光剥	覆土
14	石器	石皿	<(14.9)	<(10.2)	<(5.5)	<(930.0)	正面斜面、全周欠損	完全光剥	覆土

H10号堅穴建物出土遺物目録表(1)

No	器種	器形	口径(最)深さ(最)	底径(短)高さ(厚)	重量	内面成形・調整		備考	出土層位
						内面	外面		
1	土師器	环	17.2	—	4.9	—	ヘラミガキ・黒色處理、縫合筋	つまみ貼付、回転ヘラケズリ	完全光剥
2	須恵器	环	13.4	6.6	3.9	—	クロナデ	右側面糸切	W.カマド
3	須恵器	环	13.4	3.8	—	クロナデ	回転糸切	回転糸切	ケン
4	須恵器	环	13.4	7.4	3.5	—	クロナデ	糸切ヘラケズリ	カマド
5	須恵器	环	13.4	8.0	4.2	—	クロナデ	回転糸切	カマド
6	須恵器	环	13.6	6.6	4.4	—	クロナデ	回転糸切	カマド
7	須恵器	环	13.6	6.8	4.1	—	クロナデ	回転糸切、火燐	W.カマド
8	須恵器	环	13.6	7.2	4.0	—	火燐	回転糸切	カマド
9	須恵器	环	14.7	6.0	4.0	—	クロナデ	回転糸切	W.カマド、ホリ
10	須恵器	有台环	—	7.1	1.5	—	クロナデ	右側面糸切、付高台	完全光剥
11	須恵器	环蓋	14.9	—	4.1	—	クロナデ	つまみ貼付、回転ヘラケズリ	W.カマド
12	須恵器	武藏型	17.8	—	(6.2)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転糸切
13	土師器	武藏型	—	4.8	<(100)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	E.カマド
14	土師器	浅鉢	12.3	5.1	9.0	—	須恵器附B1、区切り文、斜引溝、縫合筋	縫合筋	試掘
15	簡文土器	浅鉢	14.4	5.5	5.5	—	須恵器附B1、内面口唇部に1本の触位凹線、無文、縫合筋	完全光剥、柘木	ケン
16	簡文土器	浅鉢	—	7.0	(0.9)	—	須恵器附B1、内面口唇部に1本の触位凹線、無文、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
17	簡文土器	浅鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、口唇部に刻1、縫合筋	縫合筋	ケン
18	簡文土器	浅鉢	—	6.0	5.3	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
19	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
20	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
21	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
22	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
23	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
24	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン
25	簡文土器	深鉢	—	—	—	—	後期圈附B1、内面口唇部に刻1、縫合筋	回転糸切、柘木	ケン

H11号竪穴建物出土遺物類別表(2)

No	器種	器形	口径(直径)	底径(縦)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
26	陶土器	深鉢	—	—	—	—	碗片・長脚、柘本	ケン		
27	陶土器	深鉢	—	—	—	—	碗片・尖頭、柘本	E		
28	陶土器	深鉢	—	—	—	—	碗片・尖頭、柘本	ケン		
29	陶土器	豆口十點器	—	—	—	—	碗片・尖頭、柘本	ケン		
30	陶土器	豆口十三點器	3.0	—	(1.8)	—	碗片・尖頭、柘本	ケン		
31	石器	台石	(6.7)	(5.6)	(3.0)	(59.5)	側平面、全周欠損	W	完全欠損	III区
32	石器	台石	(12.8)	(9.4)	(5.0)	(763.0)	側平面1、全周欠損	W	完全欠損	III区
33	石器	台石	(13.6)	(7.4)	(3.5)	(514.0)	側平面1、全周欠損	ケン	完全欠損	IV区
34	石器	台石	(14.3)	(7.2)	(1.7)	(170.9)	側平面1、全周欠損	カマド	完全欠損	IV区
35	石製機関品	石製機関品	4.5	2.1	0.75	8.2	缺片1片	ケン	完全欠損	IV区
36	石器	磨石	4.7	3.0	1.3	26.3	侧面全体	ケン	完全欠損	IV区
37	石器	磨石	8.2	7.7	2.2	102.6	側面1	W	完全欠損	IV区
38	石器	磨・敲・凹石	<(10.3)	7.1	3.8	(485.0)	側全面、敵2ヶ所、下部欠損	ケン	完全欠損	IV区
39	石器	磨・敲・凹石	11.8	7.3	3.3	438.5	側全面、敵1箇2ヶ所、凹4ヶ所	W	完全欠損	IV区
40	石器	磨・凹石	13.1	5.7	3.8	430.0	凹2ヶ所	ケン	完全欠損	IV区

H12竪穴建物出土遺物類別表(1)

No	器種	器形	口径(直径)	底径(縦)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
1	土器	环	12.6	—	4.3	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全欠損	III区
2	土器	环	(12.8)	—	(3.8)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
3	土器	环	(12.8)	—	6.2	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
4	土器	环	13.2	—	4.7	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	Nos. III区、IV区ヨリ
5	土器	环	(13.4)	—	(4.3)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
6	土器	环	(13.6)	—	(4.5)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
7	土器	环	(13.6)	—	5.5	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
8	土器	环	(15.0)	—	(4.0)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
9	土器	环	(15.6)	—	(3.8)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
10	土器	环	—	(6.2)	(3.7)	—	輪文状ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
11	須恵器	环盤	(12.4)	—	4.8	—	口クロナフ	回転ヘラケズリ	回転欠損、NSTR 周辺	III区
12	須恵器	环盤	(13.8)	—	(4.1)	—	口クロナフ	回転ヘラケズリ	回転欠損	I、II、IV区
13	須恵器	环	(17.2)	—	(6.3)	—	口クロナフ	回転ヘラケズリ	回転欠損	IV区ヨリ
14	土器	甕	(15.0)	(6.0)	18.6	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
15	土器	甕	(17.6)	—	(8.7)	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
16	土器	甕	(19.2)	—	(24.9)	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	No7. 1区
17	土器	甕	(25.6)	—	(23.5)	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	III、IV区
18	土器	甕	—	6.5	5.8	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
19	土器	甕	—	(8.8)	(8.2)	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	四士
20	土器	甕	—	(9.2)	(6.2)	—	ナフ	ヘラケズリ	回転欠損	III区
21	土器	甕	10.0	—	9.4	—	ナフ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全欠損	No5
22	土器	甕	—	(8.8)	(12.3)	—	ナフ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転欠損、柘本	カマド
23	陶土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀利B1、8字行文	碗片・尖頭、柘本	碗片・尖頭、柘本	カマド
24	陶土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀利B1、8字行文	碗片・尖頭、柘本	碗片・尖頭、柘本	カマド

H12空穴出土遺物目録表(2)

No	器種	器形	口径(縦) 深さ(横) 高さ(厚)	重量	内面	外面	成形・調整	備考	出土層位
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
45	縄文土器	深鉢	(8.6)	<2.2>	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
46	縄文土器	深鉢	(7.2)	<1.9>	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
47	縄文土器	江口土器	(9.8)	<2.4>	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
48	縄文土器	江口土器	(8.6)	<5.9>	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
49	縄文土器	江口土器	-	<2.3>	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
50	縄文土器	江口土器	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
51	縄文土器	ニチ ³ ・ト ¹ ・ヨ ¹ 圓	-	-	-	-	-	回転実測	
52	甕生土器	尊	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
53	甕生土器	尊	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
54	甕生土器	尊	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
55	甕生土器	尊	-	-	-	-	-	破片実測、石本「IV」区	
56	縄文土器	十隅	(5.6)	<2.3>	(2.8)	-	-	回転実測	
57	縄文土器	十隅片円盤	3.2	3.2	0.8	-	-	破片実測、石本「IV」区	
58	縄文土器	十隅片円盤	3.5	4.2	0.8	-	-	破片実測、石本「IV」区	
59	縄文土器	十隅片円盤	3.7	4.0	0.7	-	-	破片実測、石本「IV」区	
60	縄文土器	十隅片円盤	3.9	4.4	1.0	-	-	破片実測、石本「IV」区	
61	縄文土器	十隅片円盤	5.7	5.5	1.1	-	-	破片実測、石本「IV」区	
62	石器	砥石	11.2	4.4	2.8	106.0	砥石面數5	完全実測 No4	
63	石器	台石	(7.5)	(7.0)	(3.1)	<228.0>	全周欠損、正面使用面	IV区	
64	石器	台石	(7.8)	<10.0>	<1.8>	<179.0>	全周欠損、正面使用面	完全実測 アレ	
65	石器	台石	(8.5)	<4.8>	<2.9>	<177.0>	全周欠損、正面使用面	完全実測 III区	
66	石器	台石	(14.0)	<8.0>	<5.6>	<696.0>	全周欠損、正面使用面	完全実測 IV区	
67	石器	台石	(24.3)	<15.8>	<3.7>	<2200.0>	全周欠損、正面使用面	完全実測 IV区	

H12 部分遺物出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	口径(縦)法	底径(縦)高(厚)	重量等	内面		成形・調整外		備考	出土層位
						内面	重量等	内面	外		
68	石器	台石	<26.0>	<16.3> (3.8)	—	—	—	—	—	完全失測	III区
69	石器	台石	<28.9>	<15.6> (9.3)	6800.0	全周欠損、正面使用面	6800.0	全周欠損、正面使用面	—	完全失測	I区
70	石製品	石製陶製品	2.8	1.1	0.5	1.48 原材	—	—	—	完全失測	I区
71	石製品	石製陶製品	4.5	1.1	0.5	3.41 原材	—	—	—	完全失測	I区
72	石製品	有孔凹鑿	2.7	3.4	0.3	5.44 2丸φ 0.4、表面より穿孔	—	—	—	完全失測	No1
73	石製品	石製凹鑿	4.2	4.2	0.5	10.86	—	—	—	完全失測	IV区
74	石器	打斧	5.75	5.9	1.8	58.0 刃部欠損	—	—	—	完全失測	II区
75	石器	石凿	1.5	1.7	0.3	0.45	—	—	—	完全失測	II区
76	石器	石凿	1.7	1.3	0.2	0.28	—	—	—	完全失測	III区
77	石製品	白玉	1.1	1.1	0.91	—	—	—	—	完全失測	I区
78	石器	輪物石	<9.7> (6.4)	<2.6> (21.0)	—	下部欠損	—	—	—	完全失測	F8
79	石器	輪物石	11.4	6.2	3.5	338.0	—	—	—	完全失測	No10
80	石器	輪物石	11.5	5.5	3.7	359.0	—	—	—	完全失測	No3
81	石器	輪物石	11.9	5.1	3.5	305.0	—	—	—	完全失測	III区
82	石器	輪物石	14.6	6.6	4.2	587.0	—	—	—	完全失測	No11
83	石器	輪物石	15.3	7.0	5.7	851.0	—	—	—	完全失測	III区
84	石器	磨石	<6.0> (6.6)	<6.0> (7.4)	1.7 <2.0>	77.0 94.0	全周欠損、正面磨面	—	—	完全失測	III区
85	石器	磨石	9.6	8.1	4.9	540.0	正裏側面	—	—	完全失測	アゾ
86	石器	磨石	<11.0> (6.7)	<11.0> (2.5)	—	259.0	左側面欠損、正面磨面	—	—	完全失測	III区
87	石器	磨石	<12.2> (8.0)	<12.2> (5.8)	—	934.0	下部欠損、正面磨面	—	—	完全失測	No12
88	石器	磨石	15.1	6.4	4.4	541.0	正裏上部被打破、正裏側面	—	—	完全失測	No9
89	石器	磨・敲石	—	—	—	—	—	—	—	鐵片失測	III区
90	器?	—	—	—	—	—	—	—	—	鐵片失測	III区

F1 号柱立柱建物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(縦)法	底径(縦)高(厚)	重量等	内面		成形・調整外		備考	出土層位
						内面	重量等	内面	外		
1	圓文土器	注口土器	<8.0>	<6.6> (4.1)	—	後期壺之内2、沈腹文	後期壺之内2、沈腹文	—	—	鐵片失測、拓本	P1
2	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、網底質	後期壺之内2、網底質	—	—	鐵片失測、拓本	P2
3	圓文土器	深鉢	<12.0> (2.7)	—	—	後期壺之内2、木質質	後期壺之内2、木質質	—	—	鐵片失測、拓本	P1
4	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、沈腹文	後期壺之内2、沈腹文	—	—	鐵片失測、拓本	P2
5	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、沈腹文	後期壺之内2、沈腹文	—	—	鐵片失測、拓本	P2
6	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、2本の幅位置標記、重三角文	後期壺之内2、2本の幅位置標記、重三角文	—	—	鐵片失測、拓本	P4
7	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、沈腹文、R1 聞文	後期壺之内2、沈腹文、R1 聞文	—	—	鐵片失測、拓本	P5
8	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、幾何学文、R1 聞文	後期壺之内2、幾何学文、R1 聞文	—	—	鐵片失測、拓本	P5
9	圓文土器	深鉢	—	—	—	後期壺之内2、沈腹文	後期壺之内2、沈腹文	—	—	鐵片失測、拓本	P5

F4 号室立柱建物出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)	底径(最)	高さ(最)	重量	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	石器	砥石	(8.6)	(7.9)	<2.7)	<24.1)	上部欠損、底面4、正面に条痕	重量等	完全実測	P1
2	石器	磨石	11.6	6.0	3.8	380.5	磨面3	重量等	完全実測	P1

F5 号室立柱建物出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)	底径(最)	高さ(最)	重量	成形・調整	内面	背面	備考	出土層位
1	陶文土器	深杯	<5.1)	<4.6)	<2.9)	—	後期加賀型B、L内面部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面部に押捺、前面口縁部に3本の凹線	鏡片尖頭	拓本	P2
2	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、波状横帶	後期加賀型B、L内面口縁部に2本の凹線	鏡片尖頭	拓本	P3
3	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、鉛灰横帶	後期加賀型B、L内面口縁部に2本の凹線	鏡片尖頭	拓本	P4
4	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、鏡形狀沈像文?	後期加賀型B、L内面口縁部に2本の凹線	鏡片尖頭	拓本	P4

D2 号土方出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)	底径(最)	高さ(最)	重量	成形・調整	内面	背面	備考	出土層位
1	陶文土器	深杯	(22.2)	—	<13.7)	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文LR、沈像	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文LR、沈像	回転尖頭	拓本	覆土
2	陶文土器	深杯	—	(8.8)	<2.4)	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
3	陶文土器	深杯	—	(10.2)	<13.0)	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
4	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
5	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
6	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
7	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
8	陶文土器	鉢	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
9	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
10	陶文土器	深杯	—	—	—	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	回転尖頭	拓本	覆土
11	陶文土器	土器片	甲盤	6.0	6.0	0.9	新代頭	—	完全尖頭	拓本	覆土
12	石器	磨・敲石	<4.5)	<3.4)	<1.2)	<14.9)	全面磨り、全周文様	—	完全尖頭	拓本	覆土
13	石器	磨・敲石	13.8	8.9	5.1	976.0	正裏に磨り、正裏、上下、左右側面に敲打痕	—	完全尖頭	拓本	覆土

D3 号土方出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)	底径(最)	高さ(最)	重量	成形・調整	内面	背面	備考	出土層位
1	石器	砥石	11.4	6.9	5.2	658.0	底面2、正面に唇痕	重量等	新代頭	拓本	P1

D5 号土方出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)	底径(最)	高さ(最)	重量	成形・調整	内面	背面	備考	出土層位
1	陶文土器	深杯	—	(10.0)	(3.7)	—	新代頭	回転尖頭	拓本	覆土	P2
2	陶文土器	砥石	—	(4.0)	(3.3)	—	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	後期加賀型B、L内面口縁部に突起、沈像文	破片尖頭	拓本	D5 南
3	石器	砥石	—	2.0	1.1	0.4	—	完全尖頭	完全尖頭	ケン	完全尖頭
4	石器	石器	(5.4)	(6.2)	(2.3)	(89.0)	全周文様	—	完全尖頭	完全尖頭	覆土
5	石器	磨石	—	—	—	—	—	—	—	—	—

D7 号坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	陶文土器	浅鉢	-	-	後削輪之内2、平行削輪による削伏文	後削輪之内2、	-	回文・夷則	甕上、H11ケン
2	陶文土器	深鉢	-	(10.4)	<(7.6)	-	後削輪之内2、丸削、削伏文	後削輪之内2、	回文・夷則、拓本、甕上
3	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文凸彫文突起	後削輪之内2、	夷則	甕上
4	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
5	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
6	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
7	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
8	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
9	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、内面口唇部に隆筋と凹溝が刻まれる回文・凹彫文	後削輪之内2、	夷則	甕上
10	石器	砾石	<(11.9)	(9.8)	<(2.7)	(532.0)	完全丸削、研丸1、紙面に擦痕	完全丸削	甕上
11	石器	台石	<(7.4)	(3.9)	<(4.9)	(115.3)	下右石文押、上左石文押、使用面1、使用面2に削痕	完全丸削	甕上
12	石器	台石	<(14.5)	(17.6)	<(8.8)	(286.0)	下右石文押、上左石文押	完全丸削	No2
13	石器	加工品のある削片	<(2.65)	<(1.4)	<(0.45)	-	上部欠損	完全丸削	甕上
14	石器	石皿	<(18.9)	(23.8)	<(8.4)	<(3520.0)	下右石文押	完全丸削	No1

ビット出土遺物測定表

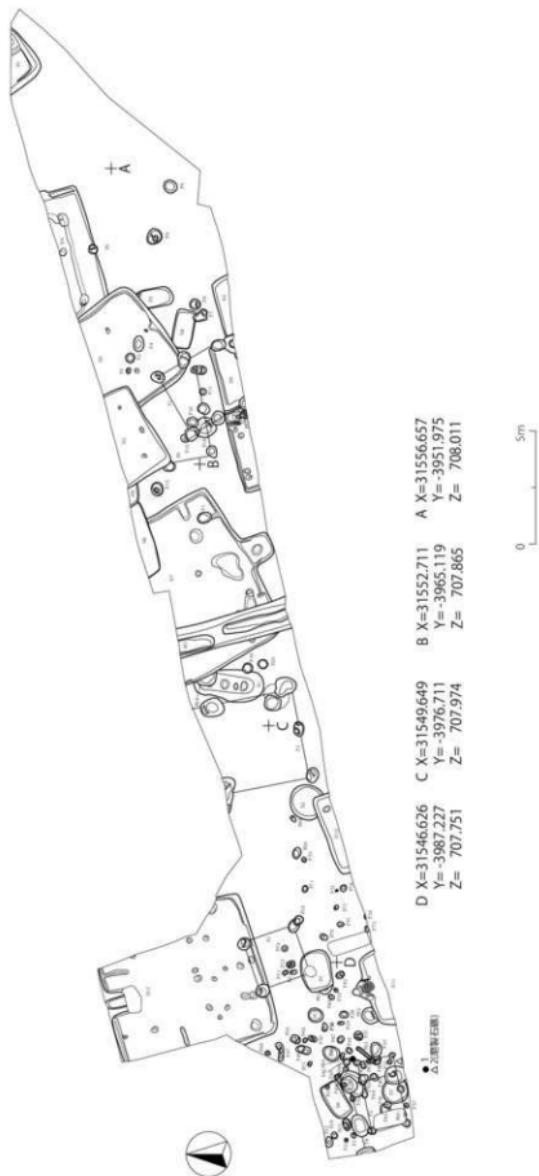
No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	陶文土器	浅鉢	-	-	-	後削輪之内、所用刃跡深跡	後削輪之内、刃跡	破片夷則、拓本	P32 甕上
2	陶文土器	鉢	-	-	-	後削輪之内、刃跡による削跡記符	後削輪之内、刃跡	破片夷則、拓本	P32 甕上
3	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、波状削痕、口唇部内面に1本の凹彫文	後削輪之内2、波状削痕	破片夷則、拓本	P41 甕上
4	陶文土器	深鉢	-	-	-	後削輪之内2、紳狀文、RL 創文	後削輪之内2、紳狀文	破片夷則、拓本	P41 甕上

遺構出土遺物測定表(1)

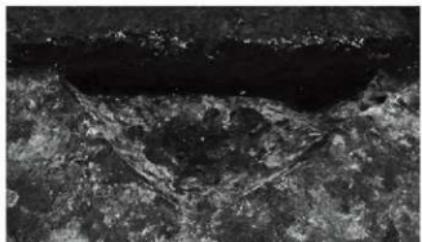
No	器種	器形	口径(最)底径(短)高(厚)	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	陶文土器	浅鉢	15.0	6.4	9.7	-	後削輪之内2、刃跡	後削輪之内2、刃跡	破片夷則、拓本
2	陶文土器	合叶器?	-	(12.6)	<(2.9)	-	-	-	回文・夷則、拓本
3	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	多段の刃跡	夷則	回文・夷則、拓本
4	陶文土器	浅鉢	-	(7.0)	<(2.6)	-	後削輪之内2、刃跡	後削輪之内2、刃跡	夷則
5	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、RL 創文、内面口唇部に1本の凹彫文	後削輪之内2、RL 創文	夷則
6	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、口唇部内面に1本の凹彫文	後削輪之内2、刃跡	夷則
7	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、口唇部内面に1本の凹彫文	後削輪之内2、刃跡	夷則
8	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、口唇部内面に1本の凹彫文	後削輪之内2、刃跡	夷則
9	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、刃跡	後削輪之内2、刃跡	夷則
10	陶文土器	浅鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、刃跡	後削輪之内2、刃跡	夷則
11	陶文土器	深鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、6と同一側体か? RL 創文	後削輪之内2、6と同一側体か? RL 創文	夷則
12	陶文土器	深鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、波状文、RL 創文	後削輪之内2、波状文、RL 創文	夷則
13	陶文土器	深鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、波状文	後削輪之内2、波状文	夷則
14	陶文土器	鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	夷則
15	陶文土器	深鉢	-	-	-	-	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	夷則
16	陶文土器	注口28	-	-	-	-	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	後削輪之内2、内側に2つの幾何学文内にRL 創文	夷則
17	陶文土器	注口18	-	-	-	-	16 と同じか	16 と同じか	夷則

遺構外出土遺物類別表(2)

No	器種	器形	口径(長)直径(短) 法	深高(厚)	重量等	内面	成形・調整外 面	備考	出土層位
18	埴輪土器	ミニチュア土器	(6.0)	(3.4)	—	後削無文	回転丸削	話題	
19	学生土器	鉢	(30.0)	—	(9.9)	—	ヘラミガキ+赤彩	表模	
20	石器	砥石	8.3	5.6	2.2	180A砥面1	完全丸削	試掘	
21	石器	研磨砥石	<3.75>	<4.3>	(1.9)	<43.8>下部欠損、よく研かれている	完全丸削	No2	
22	陶器	?	<11.5>	<1.6>	(0.1)	<2.31>上面欠損	完全丸削	ケン	



第42図 西近津XVII全体図



H 1号竪穴建物



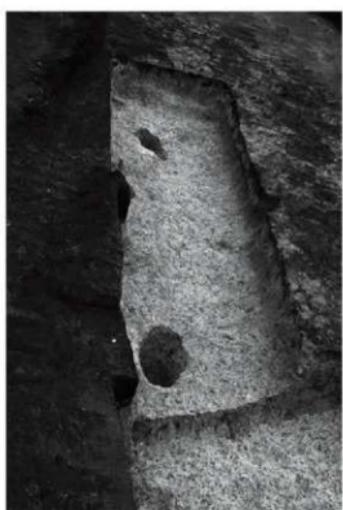
H 2号竪穴建物



H 3号竪穴建物



H 5号竪穴建物



H 4号竪穴建物



H 6号竪穴建物



H 6号竪穴建物カマド



H 8号竪穴建物



H 7号竪穴建物



H 9号竪穴建物



H 10号竪穴建物



H 11号竪穴建物



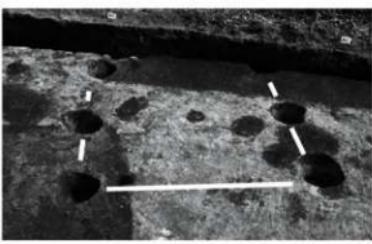
H 11号竪穴建物カマド



H12号竪穴建物



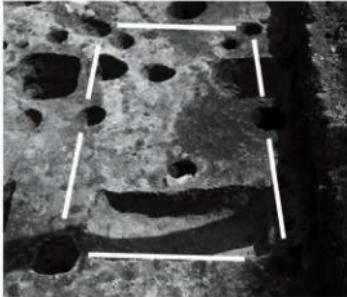
H12号竪穴建物カマド



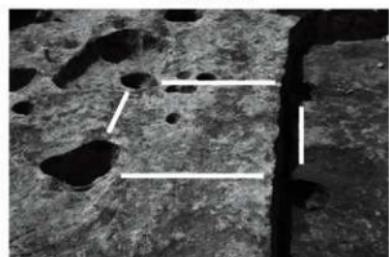
F 1号掘立柱建物



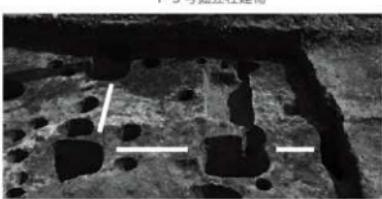
F 2号掘立柱建物



F 3号掘立柱建物



F 5号掘立柱建物



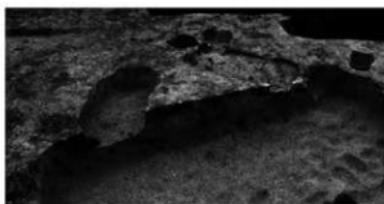
F 4号掘立柱建物



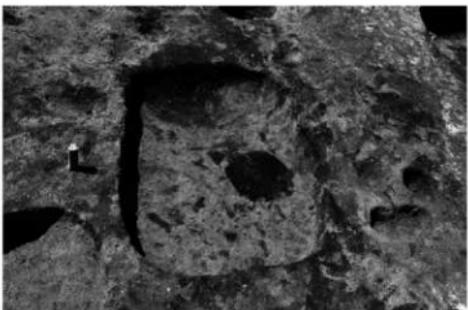
D 1号土坑



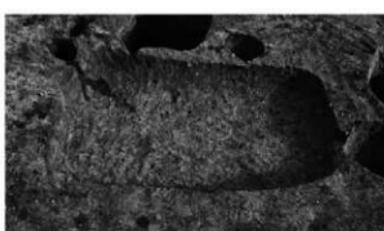
D 2号土坑



D 3 + 4号土坑



D 5号土坑



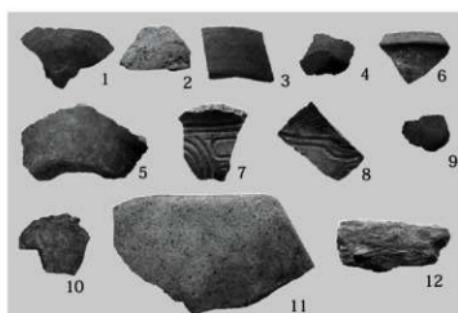
D 6号土坑



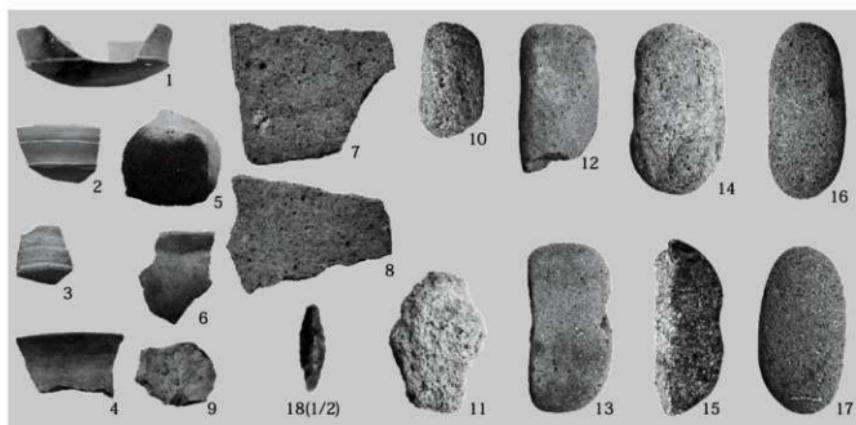
D 7号土坑



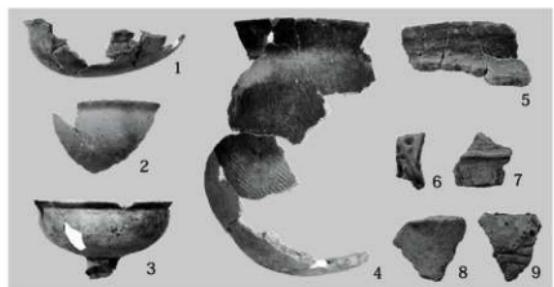
M 1号溝址



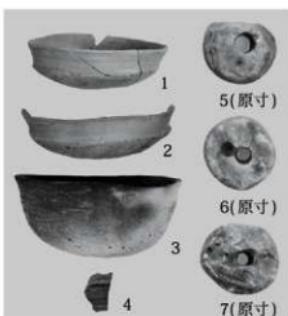
H 2号竪穴建物出土遺物



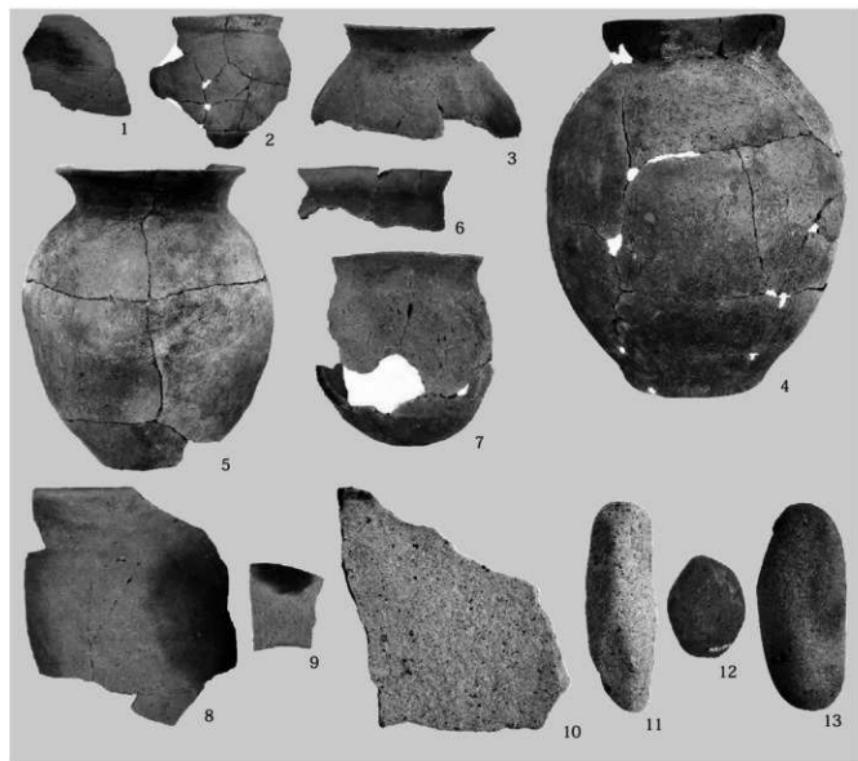
H 3号竪穴建物出土遺物



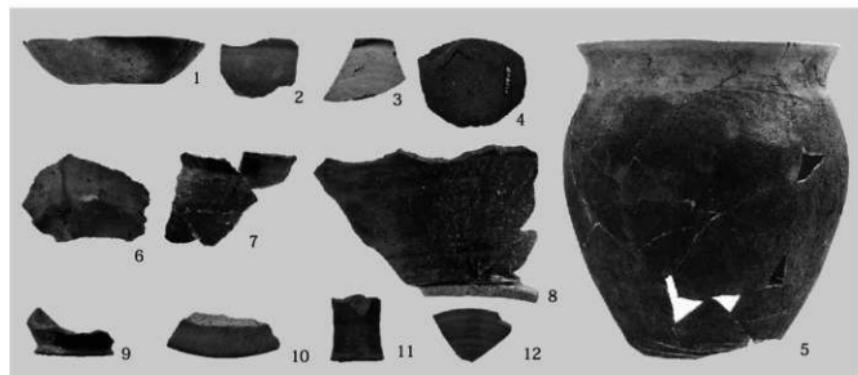
H 4号竪穴建物出土遺物



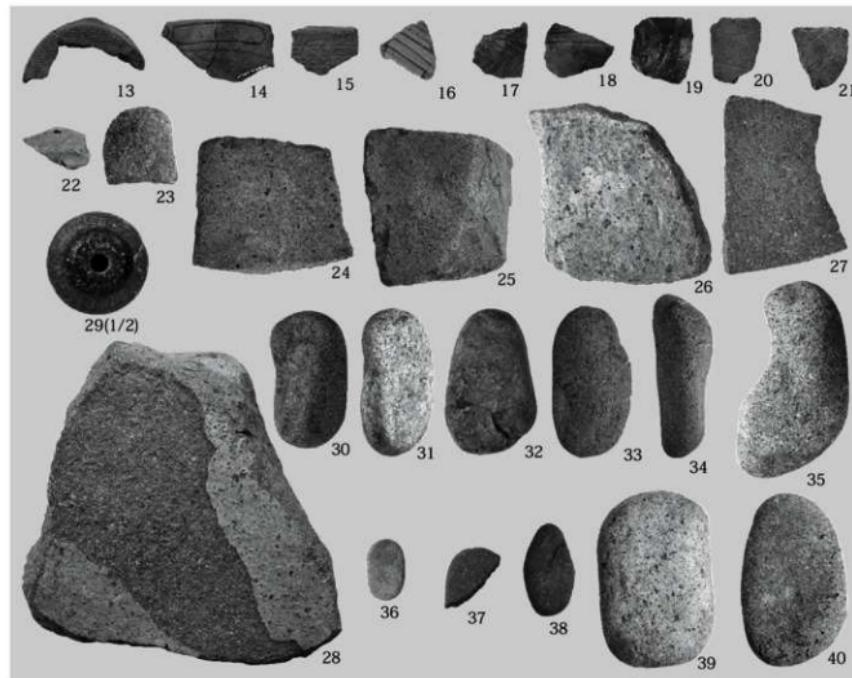
H 5号竪穴建物出土遺物



H6号竖穴建物出土遗物



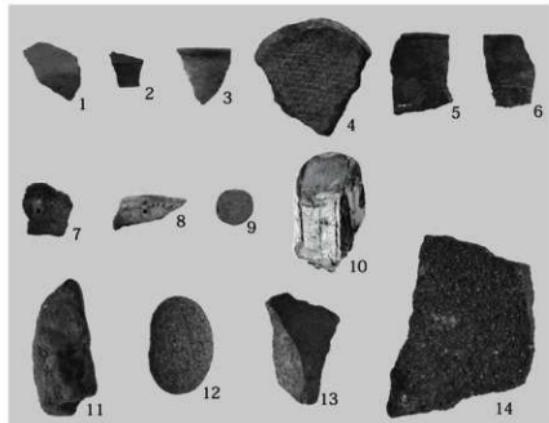
H7号竖穴建物出土遗物(1)



H7号竖穴建物出土遺物(2)



H9号竖穴建物出土遺物



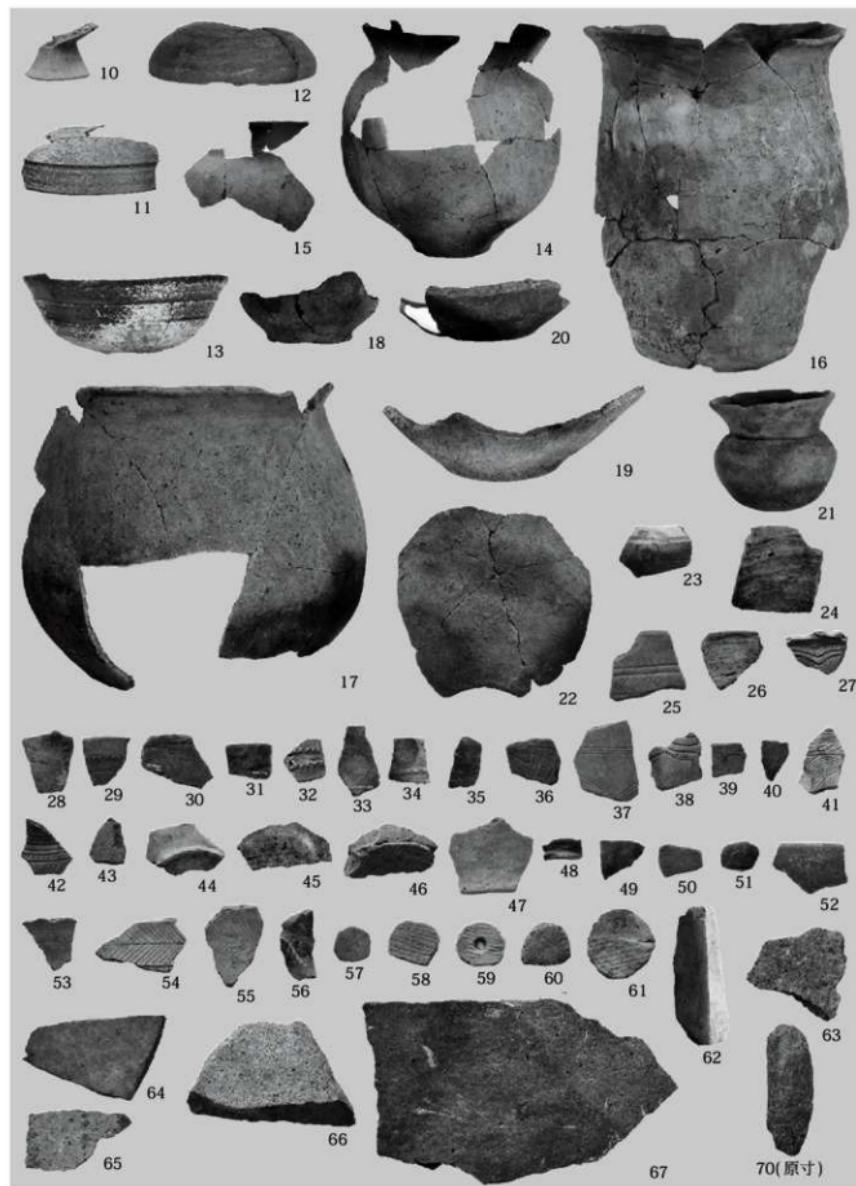
H10号竖穴建物出土遺物



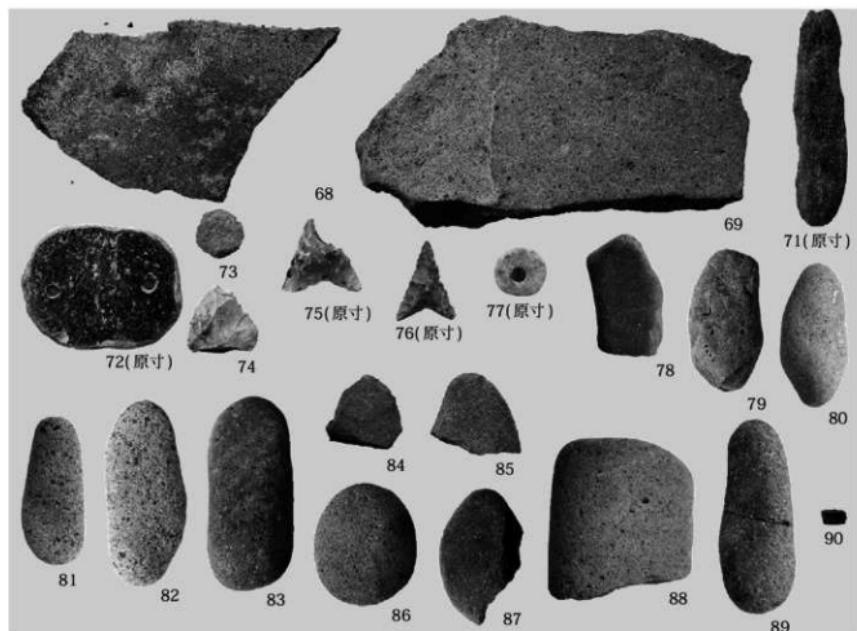
H11号竖穴建物出土遗物



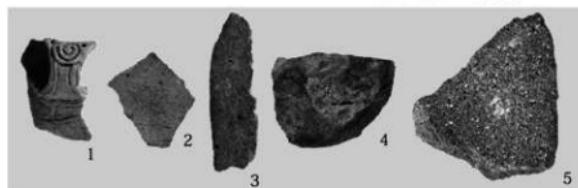
H12号竖穴建物出土遗物(1)



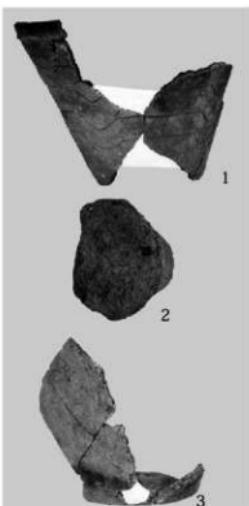
H12号壁穴建物出土遺物(2)



H12号竖穴建物出土遗物(2)



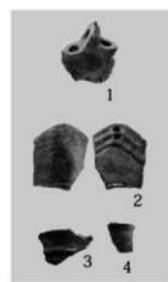
F1号掘立柱建物出土遗物



F2号掘立柱建物出土遗物

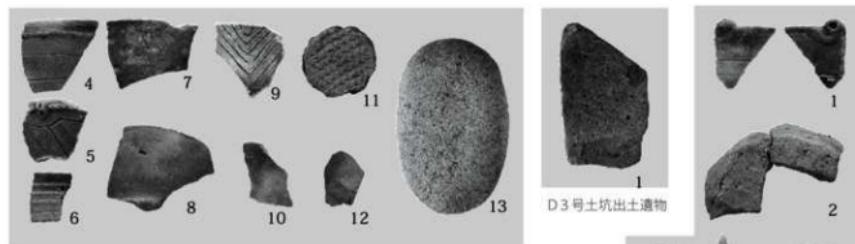


F4号掘立柱建物出土遗物

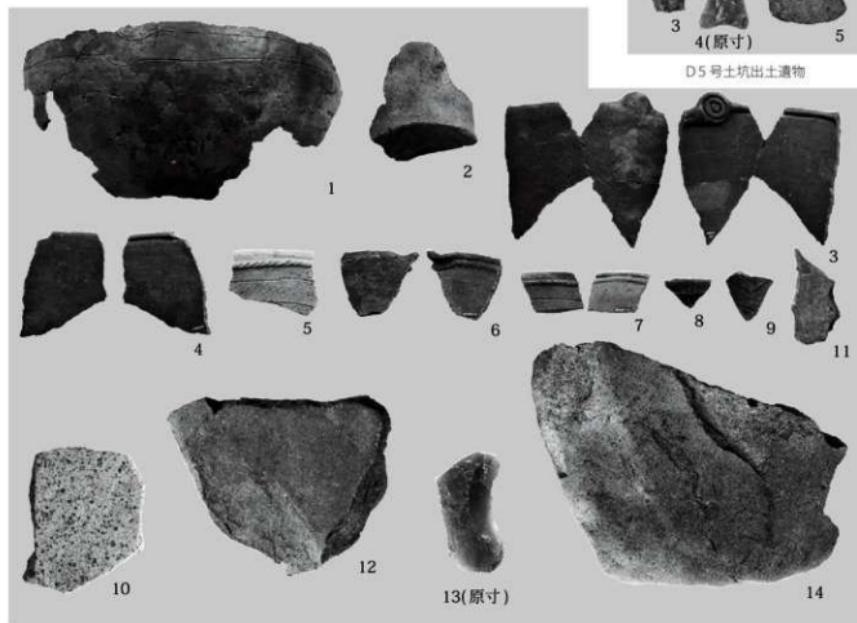


F5号掘立柱建物出土遗物

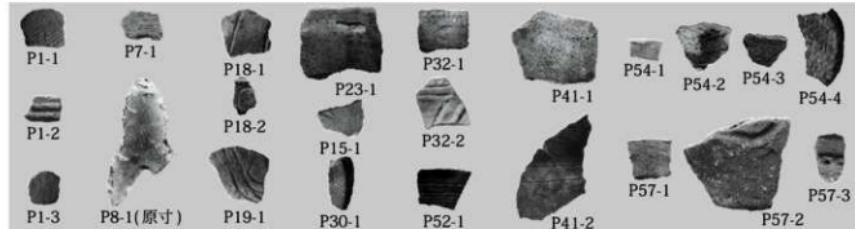
D2号土坑出土遗物(1)



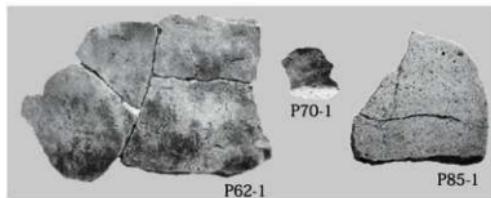
D 2 号土坑出土遺物(2)



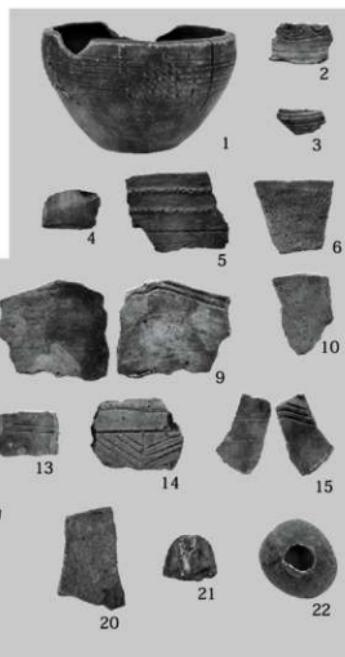
D 7 号土坑出土遺物



ピット出土遺物(1)



ピット出土遺物(2)



造模外出土遺物

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせき 17							
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡XVII							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第299集							
編著者名	小林眞寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 〒0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和5年(2023)2月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしちかついせき 17 （にしちかついせき 1086-1）				36° 17' 03.81"	138° 27' 20.55"	20210817 ～ 20210915	310.4m ²	宅地造成
西近津遺跡XVII	佐久市長土呂 1086-1	20217	29					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西近津遺跡XVII	集落址	縄文・弥生・古墳・平安	竪穴建物-12棟 掘立柱建物-5棟 土坑-7基 溝-1条 ピット-81基	縄文土器 弥生土器 土師器 石器・石製品				古墳時代後期集落の検出。 縄文時代後期船之内2式期の 土坑の検出。
要約	田切台地上に営まれた縄文時代後期～中世に及ぶ集落遺跡。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第299集

西近津遺跡群 西近津遺跡XVII

2023年2月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

〒0267-63-5321

印刷所 キクハライズン有限会社

